

ウィーン歩き回り記 (2009年5月10日～22日)

国外へ出るとこういう気になるのはどういふわけか自分ではわかりませんが、今回の渡航も記録することにしました。例によって記録魔的事細かに。ポキヤ不足と事実誤認悪しからず。

5月10日(日)水戸も成田もウィーンも快晴

さて、いよいよ2週間に亘るウィーン出張が始まる¹。ドイツ語で **Wien** (ヴィーン)、英語では **Vienna** (ヴィーナ)、ちなみに日本語では維納。

昨秋のパリ出張はエールフランス機の整備不良で23時間遅れての出発、この前の3月のパリ行きは **FEDEX** 機墜落事故で大騒ぎ、今回は警戒レベル5の豚インフルエンザ禍²の中だ。



オーストリア国旗

2週間となると、服と下着の量が1週間の場合と違う。それでも背広は1着にとどめる。着たきりすずめとはいかないが、背広2着を持っていくのは重いし、スーツケースがはちきれそうだ。少しラフな格好で会議に出るとして、ジャケットと替えズボン。ウィーンの気温は札幌と同じ程度らしい(といっても今の札幌の気温を体感したわけではないのだが)ということで、コート代わりになるハーフコートも持っていく。これが結構重い。

いつものとおり水戸駅南口からの早朝高速バスで成田へ。今回は06:23発。

ターミナル1のオーストリア航空カウンターでチェックイン。前回9年前の2000年9月にウィーンへ行ったときもオー航空だった。チェックイン荷物の重量は14.7kg。確かに1週間の出張より2,3キロ重いか。(前回パリ行きの際、女性係員が荷物を載せたコンベアの上を歩いて、彼女の体重がわかってしまった。体重計代わりに使える。)同行のSさんは、しっかり服装類を整えてきたのと仕事の書類とで20kgだと。そりゃ重たかろう。

あつという間にチェックインを済ませる。出発時

刻は20分早くなったと。そんなこともあるのか。この理由は後にわかる。

携帯電話レンタルショップへ。今回はDocomoへ行く。国内ではDocomoを使っており、キャンペーン中で、海外でも使える機種への更新が2,100円だという。その機種を今後も国内で使ってもいいし、今までの機種を使いたければFOMAチップを入れ替えればいい。カウンターではお姉さんのおっしゃるまま、チップの入れ替えとデータの赤外線転送をしてもらった。さすがはプロで、ボタン操作が早い。

早速新しい機種を使おうとしたが使い方がわからない。飛行機の中で2,3の操作だけマニュアルを読んでおいた。

空港ではマスクをしている人はチラホラ。僕はしていない。日本人だけかと思っていたが、日本のマスク文化に合わせてくれていた外国人婦人がいた。何だか似合わない。マスクはそのうち日本のファッションだとして流行るかも。無地では面白くないので、せっかくだからデザインをすればいいと思う。アニメの絵でも描けば外国の子どもたちの間で爆発的に売れるだろう。だからと言ってインフルエンザに罹りたがると困るが。航空会社のチェックインカウンター職員はマスクをしていなかった。Docomo社員はしていた。

ヘアムース315円也。当然100cc以下のもの。

セキュリティ・チェックで靴が金探に引っ掛かる。

出国審査。最近スーパー・マーケットで自分で会計できるようになっているように、自分でパスポート情報を機械に読み取らせることも出来るようになっていたが、あらかじめ届けておかななくてはならないらしい。

ゲートは、第4ターミナルの奥はるか45番。そう言えば、一昨年ドイツ・ベルギー・フランスへ行ったときもこの辺りのゲートだった。思い出した。

ふとジャケットのポケットに手を入れると、青森の友人宛の封書。出国前に空港のポストにでも放り込もうと思っていたのに忘れてしまった。その辺りの職員に投函を依頼できるか聞くと、ハガキのみOKだという。封書は中身がわからないので不可。インフォメーションカウンターで相談してみてもどうかといわれたが、カウンターは留守で、おまけに「出国後の日本国内への郵便投函を日本で初めて開始しました。ただしハガキに限る」とポスターが貼ってある。理屈がどうなっているかわからないが、通常国際郵便の封書でも中身の検閲などしないではないか。あきらめてウィーンへ持ち込むことに。

出発時刻が早くなったので搭乗時刻も早くなっ

¹ オーストリア国旗: 正式の国旗は中央に鷲が入っているが、一般で使うときは鷲を取っている。赤と白が使われているのは、十字軍の遠征の際、当時のオーストリアの大公レオポルト5世の純白の軍服が敵の返り血で真っ赤に染まり、ベルトの下だけが白く残ったという故事から。

1278～1918年ハプスブルク家が支配。第一次大戦後共和国となり、1938年ドイツに併合。第二次大戦後、米・英・仏・ソ4国によって分割占領。1955年主権回復、永世中立国となる。面積は北海道とほぼ同じ。

² 豚インフルエンザは英語で **pig influenza** とは言わない。 **swine flu** (スウィン・フル) と言うらしい。因みに豚を汚らしい生き物としているイスラム圏では、この用語をメディアが使用することに文句を言っていた。「豚に真珠」という格言は英語にもあり、**Cast peals before swine** という。日本語と同じだ。

たが、結局出発時刻は定刻だった。この理由は後にわかる。

離陸。

オーストリア航空乗務員の制服は、男性はジャケットだけが赤だが、女性はジャケット、ベスト、スカートに加え、ストッキングに靴まで赤づくめだ。

機内映画2本。“Marley & Me”。邦題はわからないが直訳すれば『マーリーと私』。ドイツ語では“Marley & Ich (イッチ)”³。ジェニファー・アニストンとオーエン・ウィルソンの新婚夫婦と、世話が焼けるがやがて欠かせない家族の一員になっていく犬のマーリーのコメディ娯楽映画。ジェニファー・アニストンはブラッド・ピットの前の奥さん。アンジェリーナ・ジョリーにとられちゃいましたね。

もう1本の映画は、クリント・イーストウッド29本目の監督映画“Gran Torino (グラン・トレノ)”。モン族居住区となった住宅地に住み続ける78歳のクリント・イーストウッドが、隣人の若いモン族友人一家の復讐に身を捧げる。ところで、1本目の映画のマーリーと、2本目の映画のイーストウッドの飼い犬とは同一人物、というか同一犬物ではないか？

ウィーン国際空港に定刻16時前に到着。機体にボーディングブリッジを接続するのではなく、エプロンに駐機したまま、タラップを使って降りる。それも後ろの出口から降りるようにとアナウンス。待っているうちに結局前からも可となった。いろいろと妙なフライトだ。理由はまもなくわかる。

タラップを降りたわれわれはバスに乗り、1分ばかりで空港建屋へ。ドアをあけて入るとそこが入国審査。5分ばかり並んで入国。200mほど歩いてバゲージクレームで、さらに50mも歩けば出口。何て小さくてわかりやすい空港なんだ。昔いたカナダのウィニペグ国際空港並みだ。

今回は日本人団の一員の末席。Sさんたち数名には車が迎えに来る。他の約10名くらいの方は別の手段で市中心部のホテルまで移動する。僕だけはホテルが違って、南駅(Wien Südbahnhof)の近く。旅行ガイドブックによると空港から南駅行きのバスに乗ることになるらしい。

と思っていたところ、空港出口で、Sさん、Mさん、Tさん、そして私の合計4人の名前が書かれた紙を持った男性が立っていた。つまりこの4人が迎えの車に同乗する。運転手はSさんと顔見知りのよう。Sさんはこの2ヶ月で3回目の渡境らしい。

車の中で先の奇妙なフライトの理由が判明した。秋篠宮殿下夫妻が乗られていた。成田では、一般乗客に対しては出発時刻が早くなったとのアナウンスをし、殿下夫妻の動線を確認した上で、黒塗りの車が機体に横付けして搭乗したのだろう。そして出発。ウィーン空港では、車を横付けするために、機体をブリッジにつけず、タラップを使って降機。殿下夫

³ 邦題は『マーリー 世界一おバカな犬が教えてくれたこと』と判明。すでに日本では封切られていた模様。

妻は前の出口から先に降りてもらうために一般乗客は後ろからとなった。この間に黒塗りの車で移動。セキュリティ・チェックも何もなくそのまま車で空港から出ることが出来るらしい。

Mさんの2つ後ろの席が夫妻の席だったとか。オーストリア航空はファーストクラスがないのでビジネスクラスだ。車に同乗したTさんは警察畑の方らしい。腐敗防止条約関係のお仕事で来られたとか⁴。

20分ほどで南駅の目の前のホテル・プリンツ・オイゲン(Hotel Prinz Eugen)に到着。ホテル内は改装されているが、ホテルが面する通りのさびれた様子とか、地下鉄の駅の様子とか、おそらく9年前に泊まったホテルがここだ。その頃には、まだオンライン予約など出来ない時代だったが、その名前に何となくひかれて選んだのだろう^{5,6}。

⁴ ニューヨーク、ジュネーブに次ぐ第3の国連都市であるウィーンの国連ウィーン本部には、ウィーン本部、国際原子力機関(IAEA)、国連工業開発機関(UNIDO)、包括的核実験禁止条約機関(CTBTO)準備委員会が本部事務局を置いている。ウィーン本部下に国連薬物犯罪オフィスがあり、その中の犯罪分野の任務のひとつが腐敗防止条約の締結・実施の促進。テロ防止関連条約の関係も。

⁵ ホテルの説明によれば、オイゲン公が夏の別荘としてBelvedere(ベルヴェレーデ)宮殿を建立。このホテルは宮殿の敷地だった一角に建ち、1958年開業。オイゲン公はトルコ軍の侵攻からウィーンを救った猛将として有名(次項参照)。

⁶ (Wikipedia記事を編集) サヴォイア＝カリニャーノ公子オイゲン・フランツ(Prinz Eugen Franz von Savoyen-Carignan, 1663-1736)は、プリンツ・オイゲンの名で知られるオーストリアの軍人。サヴォイア家の血を引くフランス・パリ生まれの貴族で、サヴォイア公の男系子孫にあたることから、公子(プリンツ)の称号をもって呼ばれる。一説に、実の父はルイ14世であったとも。

長男ではなかったため伯爵を継げなかったオイゲンは軍人となる道を選んだが、ルイ14世のフランス軍では用いられなかったので、1683年にオーストリアに渡ってフランス王の宿敵であるハプスブルク家のレオポルト1世に仕え、オーストリア軍の将校となった。この時代には軍人が所属を移動することは珍しいことではないが、オイゲンはその生涯を出身国フランスとの戦いに費やす。

オーストリアにおけるオイゲンの軍歴は、1683年の第二次ウィーン包囲に始まったオスマン帝国との戦争から始まった。長期に渡って続いたこの戦争においてオイゲンはハンガリー戦線で活躍し、1697年のセンタの戦いでは渡河中のオスマン帝国軍を奇襲、約3万人を溺死させ、オスマン帝国のドナウ中流域奪回の最後の試みを挫折に導く。1699年のカルロヴィッツ条約でオーストリアがハンガリー全土を獲得し戦争が終結するまでの間に、オーストリア軍の有力な将軍のひとりとなっていた。

1701年、フランスのブルボン家が、断絶したスペイン・ハプスブルク家の王位を継承しようとしたことにオーストリア・ハプスブルク家が反対し、スペイン領ミラノ公国に派兵したことでスペイン継承戦争が始まる。オイゲンは北イタリアに入ったオーストリア軍を率いてフランス軍を破った。

スペイン継承戦争の結果オーストリア領となった南

前回のことで覚えているのは、ホテルの窓から眺めた屋根の連なりが、映画『第三の男』(1949)に現われた風景と似ていると思ったことと、路面電車に乗って中央墓地まで行き、天才物理学者ボルツマン (Boltzmann) の、エントロピーの定義式 $S=k\log W$ を刻んだ墓の写真を撮ってきたことぐらいだ。

この旅行記録は地図や写真を載せない。凝り始めるときりがないからだが、興味ある諸氏は地名を地図で探って想像するなり、Google map でご覧になっていただくとして、ボルツマンの墓の写真だけは掲載することにした(右)。旅行ガイドには、ベートーベン、ブラームス、シューベルトの墓があることか、せいぜい並木道の風景が『第三の男』のラストシーンに使われたことまでは書いていても、ボルツマンのことなど決して書いてないから。

Hotel Prinz Eugen 805 号室。部屋は清潔で気持ちがいいが、やや狭い。デスクは小さく、椅子を出すとベッドとの間にスペースがなくて通り抜けられない。バスは奇麗だが、細かいところで使いにくい。この前のパリの Best Western はよかった。

部屋は南に向いていて、眼下に南駅が見える。南駅は、ウィーンからオーストリア南部のグラーツやイタリアなど南に向かう南方路線(3階部分)と、ハンガリーやスロバキアなど東に向かう東方路線(2階部分)の終点で、それらの線路が直交して駅ができています。つまり基本的にL型。それに、直交する線路を結ぶ弧状の線路があるようで、貨物列車らしい列車がとまっているのが見える。

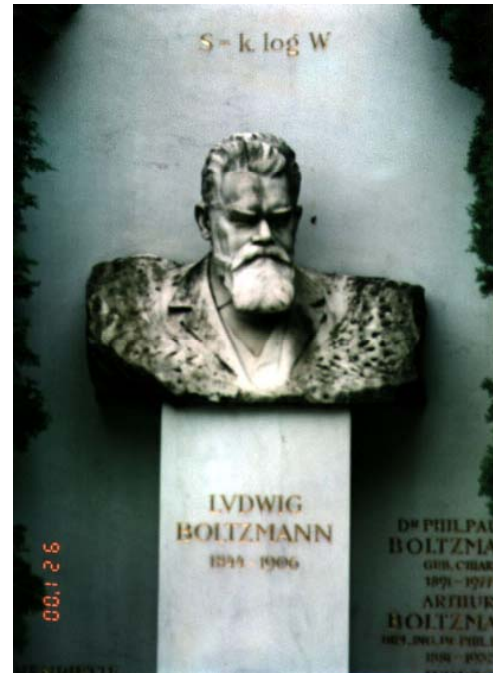
今回は11泊もするから荷物は当然室内のローカーに移動。荷解きをしながら部屋のミニバーのビール1本。ふと気がつくと5時半。慌てて出掛ける。18時から関係者の準備会合があるから Hotel Europa (ホテル・オイローパ) に集合と。

最寄りの地下鉄の駅、ズュートティローラー・ブ

ネーデルラント(現ベルギー、ルクセンブルク)の総督となり、後にはイタリアにおけるオーストリア領の副王とされた。1716年にオーストリア・トルコ戦争が起こるとオイゲンはオーストリア軍を率いて再びオスマン帝国軍と戦い、ベオグラードを奪って全ハンガリーの割譲を認めさせた1718年のパサロヴィツ条約締結を実現。

その後も生涯をオーストリア軍の将軍として生きた。かつての功績により政治的にも大きな発言力を有していた。カール6世の皇女マリア・テレジアの結婚相手にプロイセン王太子フリードリヒ(後の「大王」)を推挙したが、王女の結婚相手は皇帝も好意を寄せ、皇女と相思相愛のロレーヌ公フランツ・シュテファンとなった。オイゲン公は2人の結婚式には見え透いた口実で欠席したが、もしもフリードリヒとの結婚が実現していれば歴史が大きく違っていたと言われる。

1736年にウィーンで没し、その遺骸はシュテファン大聖堂に埋葬された。オイゲンは相続人となる子を設けなかったため、死後にその莫大な財産は、オイゲンがウィーンの夏の別邸として足かけ10年をかけて建設し、1723年に完成したベルヴェデーレ宮殿とともに、ハプスブルク家の所有となった。



ラッツ (Südtiroler Platz) はホテルから出て西に向かい2ブロックのところ。駅名については、ホテルに聞いたところ *tilorer* はトロリーのことと聞こえたのだが、よくわからない。「南のトロリーの場所」ならいかにもだが。駅のエスカレータは、いつぞや日本で整備不良のエレベータのために死者を出した Schindler (シンドラー) 社製。地下鉄の路線で言えば、市内を走る5路線のうちの1号線(U1)。街中へ2駅、仕事場へ9駅と便利な路線だ。乗ってしまえば5分ほどで街中に到着する。

駅自動販売機にてクレジットカードで1週間フリーパスを購入。ウィーン市内の乗り物(地下鉄、トラム、バス)が乗り放題のなんとも便利なチケット。初回使用時から連続1週間使用できる。EUR 14.00也。自動販売機から紙片が2枚出てきたが一見どちらが切符でどちらが領収書かわからない。ドイツ語を読めない哀しさ。因みに地下鉄1回分のチケットは市内のどこへ行くにも EUR 1.70。そのほかにも24時間券とか8回券とかいろいろある。切符の初回使用時に青い刻印機でパチンと使用日時が刻印される。

改札などはもとよりない。だからただ乗りは楽に出来る。最初の刻印だって、誰も見に来なければ勝手に済ませてしまってもわからない。電子データが記録されるわけではないから、期限が過ぎていても乗れる。日本だったら、期限が過ぎた定期は改札口で黒いゲートが無常にも閉まる。こちらでは乗るときも降りるときも全くフリー。不正をしてもわからないが、見つかったときの罰金はかなり高いらしい。自己責任。日本はいちいち改札でチェックを受ける⁷。

⁷ 日本の新幹線や、あるいはその他のいくつかの路線では、切符に座席予約に関する電子情報が組み込まれていて、改札を通過させると搭乗する車掌の端末に情報が伝わり、座席指定した乗客が確かに乗車したことや、逆に乗っ

日本人が一番苦手なのは自己責任だから、他力本願で性悪説に立つシステムは仕方がない。

車両は比較的きれいで、ドアは、パリの地下鉄と同じく、自動ではなく手でレバーを引く。新しい車両だとボタンを押しておけば停車後自動的に開く。

集合場所の Hotel Europa は中心街にある。中心街とはケルントナー通り (Kärntner Straße)⁸で、もっとも賑やかな部分の南端がカールスプラッツ駅 (Karlsplatz「カールさんの場所」駅)、北端がシュテファンスプラッツ駅 (Stephansplatz「シュテファン寺院の場所」駅)。カールツプラッツ駅で降り、地下街を歩いて地表に出る。思い出した、思い出した、目の前がオペラ座だ。

数分で Hotel Europa に到着。急ぎ足で歩いたためもあるが、暑い！汗が流れ落ちる。

Hotel Europa に集まった面々は6名。何のことはない、「準備会合」とは晩御飯を一緒にということ。もっとも僕にとっては初対面の人が二人いたから面識を得る機会でもあった。ケルントナー通りから入ったオーストリア料理の店。日曜日の夕方はまだ6時だったから最初の客だった。この国では基本的に日曜日は店を閉める。開いているのは観光客用か。

6名で、ビールと、せっかくだからウィーン名物シュニツェル。カツレツのようなものだ。シュニツェルにもビーフとポークがある。やっぱりポークが安い。合計 EUR 110。ここぞと、旅行社が用意してくれた EUR 100 紙幣を使う。EUR 100 紙幣なんて高額紙幣を使う機会など滅多にないので、使ってしまう。

8時頃に散会。今の季節は8時半頃まで明るいようだ。地下鉄に乗るまでに路上の売店で、例によって町の地図 (EUR 4.00) と絵葉書を買う。どうもこの辺りの売店には買う気が起こる絵葉書がない。パリと違う。結局エリザベート妃のを5枚 (EUR 0.80×5枚=EUR 4.00)。カールスプラッツ駅から2駅乗って帰る。ホテルの辺りは遅くなると気味が悪くなりそう。

ホテルのレセプションでインターネットの申請。24時間 EUR 17.00 で、ID とパスワードをもらう。少し高いね。部屋でPCの接続でへまをし、余分に2回申請したことになった。プラス EUR 34.00。

荷物を片付けていて忘れ物に気付く：

- ・ いつものヘアブラシ：携帯用のもらいものの櫛で代用
- ・ デジカメの充電器：バッテリーを買うか。どうせ今ひとつしかないから。
- ・ Sailor 万年筆 Profit 長刀研ぎのインク：万年

て来なかった (つまりキャンセルした) ことがわかるようになっていく。こちらの特急列車には、たぶん、そのようなシステムはない。

⁸ 13世紀にケルンテン州へ下る道の基点があったことから名づけられた由緒ある通り (僕の旅行ガイドブックによる)。江戸へ下る東海道の基点、京都の三条大橋のようなものネ。

筆だけ持ってきてインクを充填しておくのを忘れた。必要ならこちらで買う。

部屋では暑くてクーラーをつける。この後クーラーを使わない日はなかった。

ウィーン初日が終わる。

ここウィーンは言わずと知れたハプスブルク帝国の遺産の街だ。皇帝の庇護の下、音楽・絵画・学問も発達した。オペラ座の前の地下街にある公衆トイレでさえ、ヨハン・シュトラウスの『美しく青きドナウ』を流している。さすがに観光だけでは将来に亘って不安だから、ニューヨーク、ジュネーブについて第3の国連都市として名乗りを挙げたのだろう。

オーストリアと言えばハプスブルク家、ハプスブルク家と言えば女帝マリア・テレジア、その娘のひとりがフランスのルイ 16 世に嫁いだマリー・アントワネット。ハプスブルク家は世界史の教科書を飾りましたね。

ハプスブルク帝国については以前少し勉強した。塚田哲也の『エリザベートーハプスブルク最後の皇女』がきっかけだった。

化粧品「ミツコ」は、オーストリア・ハンガリー帝国の貴族、ハインリヒ・クーデンホーフ＝カレルギー伯爵の妻で日本人・青山光子に因むらしいこと、その息子で、後々汎ヨーロッパ主義、ヨーロッパ合衆国を唱えたりヒャルト・クーデンホーフ＝カレルギーがナチスから逃れて夫婦でアメリカへ逃避行した史実が、「君の瞳に乾杯」の名科白で有名な映画『カサブランカ』(1942)の基になっていること、カトリーヌ・ドヌーブの映画『うたかたの恋』(1969)はフランク・ヨーゼフとシシィ (Sisi) こと絶世の美女と言われたエリザベート妃との息子である皇太子・ルドルフの悲恋 (心中事件) が題材であることなど、いろんなことを知った。青山光子は日本人でただ1人、オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ I 世と会話した人物ということになる。

塚田哲也の『エリザベートーハプスブルク最後の皇女』のエリザベートはシシィの孫にあたる。ハプスブルク家滅亡を見た彼女も、皇女として帝王学 (皇女学?) を教えられたことが書かれてあったことを覚えている。

それらの舞台ウィーンに来ている。10 日ばかり何をして過ごそうか。

(今日の出費) 高速バスローズライナー ¥3,000、ヘアムース ¥315、ホテルの部屋のミニバーのビール1本 EUR 3.25 (チェックアウト時にまとめてカードで払おう)、1週間フリーパス EUR 14.00、夕食 EUR 44.00 (2人分)、ウィーン地図 EUR 4.00、絵葉書 EUR 4.00、インターネット EUR 51.00 (チェックアウト時にカードで)：合計 (現金) ¥3,315 + EUR 52.00 (カード) 68.25

5月11日(月)晴れ

4時頃起床。時差ぼけのためにどうせ2,3日はリ

ズムは滅茶苦茶だ。PCに向かう。メールの相手。

朝食は6:30~10:30に1階で。ヨーロッパだから1階とは日本でいう2階であり、日本の1階はこちらでは地上階。エレベータでは「E」と表示されている。何故「E」なのかはわからない。

朝食は日本で言うバイキングだが、やはりドイツらしく、黒パンがある。ハム、チーズ、ヨーグルト。いまやどこの国の朝食にもつきものの、スクランブルドエッグ、ソーセージ、ベーコン、シリアル各種。パンの種類はさすがにフランスと違って、バゲットなどはなく、せいぜいクロワッサンとチョコチップが入った何とかというパンが、申し訳なさそうに数切れだけある。今朝の失敗は、辛子マヨネーズと間違えてわさびマヨネーズをとってしまったこと。

いよいよ出勤。初出勤。時間に余裕があったので、いきなり地下鉄に乗るのではなく、少し歩いてみることにした。ホテルを出て東に向かう。すぐにプリンツ・オイゲン通り(Prinz-Eugen-Straße)を越え、ベルヴェレーデ宮殿の庭に入り込む。ジョガーとウォーカーが多数。上宮と下宮の間に広がる広い庭を北に向かって通り抜け、レンベーク(Rennweg)というトラム(路面電車)通りに入る。

この道を街中に向かう。シュヴァルゼンベルク通り(Schwarzenbergstr.)を北上し、ケルントナーリンクという環状道路(昔の城壁跡)をインペリアルホテルを左手に見ながら西に向かい、通りすがりの人に聞き、オペラ座を見つけたところでカールスプラッツ駅で地下鉄に乗車。ここまででホテルを出発してから40分程度か。キョロキョロしながら大回りして街中までこの時間だから、要するに、ウィーンはこじんまりした町だ。パリにははるかに及ばず、ブリュッセルといい勝負か。朝8時頃だが東京の地下鉄のように混んでいない。

地下鉄は、シュテファン寺院のあるシュテファンスプラッツ(Stephansplatz「シュテファンの場所」)駅から3つ目に、ウィーン北駅(Wien Nord)と接続しているプラターシュテルン(Platerstern)駅がある。

プラターとは、ドナウ河本流とドナウ運河にはさまれた広大な公園⁹で、1917年に完成した大観覧車「リーゼンラート」は、チターの演奏で有名なオーソン・ウェルズ主演映画『第三の男』に登場した¹⁰。地下鉄なので、車窓からは見えない。当然駅もドナウ河本流とドナウ運河にはさまれた場所にある。

次の駅(Vorgartenstraße)を過ぎると、地下鉄は地表には出ているはずだがトンネルの中のもの。そして次のドナウインセル(Donauinsel: insel = island)駅へ入ると、そこはドナウ河本流の中州の上にある。

⁹ 元は王侯貴族の狩猟場であったところを、マリア・テレジアの長男で啓蒙専制君主として知られるヨーゼフ2世が一般民衆に開放。19世紀後半には万国博覧会。

¹⁰ 観覧車は直径61m。茨城県のひたちなか海浜公園にある、『古畑忍三郎』で木村拓哉が乗った観覧車「プリンセスフラワー」は高さ65mといい勝負。

ここからドナウ河が見える。観覧車はなぜか見えない。ドナウ河¹¹は必ずしも「美しく青く」は見えない。

その次が職場の最寄り駅である。職場の駅は、Kaisermühlen-VIC 駅。きつともとの名前がKaisermühlen 駅(王様の何とか?¹²)だったのだろう。VICはVienna International Center(ウィーン国際センター)の略。手持ちの路線図を見る限り、ウィーン市内の駅名では唯一英語で書かれている駅。

駅を降り、VIC方面開札を出るとそこはセンター入口。われわれ非職員は毎日手荷物のX線検査を受ける。受付で写真を撮ってグランパスという写真入りの身分証明書バッジを作ってもらおう。これからはこれを常時携帯。

何せ2,600人が働く職場。それでも駅があまり混まないのは時差出勤をしているからか。C棟の位置を聞き、遅刻しそうだと思ったので急ぎ足で2Fの控え室へ駆け込んだらぬけの殻。皆さんすでに会場へ。

10時頃か、会議中に近くで何やら音楽が聞こえる。イヤホーンをしているので気付くのが遅れたが、自分のズボンのポケットに入っている携帯電話の呼び出し音だった。新機種でマナーモードにしておくのを忘れたのだ。それにそのような呼び出し音だということも知らなかった。慌てて切断したが、会議場の入口にも室内にも電源を切るように書かれているのに恥ずかしい。

電話番号を見ると、日本人でこちらで働いているZさんからだった。義母の施設で日頃から大変世話になっている入居者の息子さんだ。昨日尋ねる旨メールをしておいたので電話をくれたのだ。

会議場外のロビーで待っていたらまもなく現われた。彼の居室へ行くことに。建屋が違う。彼の居室はA棟。会議場のあるC棟4FからエレベータでC棟7F、ここで廊下を渡ってA棟へ。A棟7Fでエレベータに乗り21Fへ。エレベータを降りたエレベータホールまでは誰でも到達できるが、ここから先はセキュリティがかかっている、鍵を持っている者でなければ入れない。

彼の居室に招じられる。2人部屋で、もうひとりのスーダン出身の女性は出張中とのこと。コーヒーは部屋を出て近くの、抽出してくれる自動販売機。何種類もあるがEUR 0.25かEUR 0.35程度。4,50円程度か。安い。それからNESPRESSOのコーヒーマーカーもおいてあった。欧州で大爆発だ。エスプレッソを煎れるコーヒーマーカーで、プラスチックに包まれた円盤型の固形をスロットに挿入するだけ。水戸なら京成百貨店で売っているらしい。機種にもよるが2万円程度からとか。

¹¹ ドナウ(Donau)はドイツ語読み。英語ではダニューブ(Danube)。

¹² 後に知ったが、mühlは沼とかゴミ溜とかの意味らしい。皇帝が水遊びをした場所か。

Zさんとは話が興じて1時間強もお邪魔する。性格的には活発な方で、しがらみの多い日本などより海外で幅広く活躍された方があって見えた。義母が世話になっているお礼、それに対して「お互い様ですから」と。

本人は水戸市内原出身。奥様は私の住む町内に隣接する町内のご出身とのこと。沢渡川の辺りとかディスカウント酒店の前辺りの田圃は奥様の実家のもので、かつては田圃作業をしたこともあるとか。実に近所の方ですな。写真を、と言ったのだが、写真を撮られることは勘弁してもらっているとのこと。

居室を出てまず1Fの郵便局へ。成田空港で投函しそびれた封書を出すため。工事中のため、ビル内の、とてもじゃないが一人じゃ行き着けそうにない奥まった場所に移転しており、連れて行ってもらう助かる。EUR 1.40。日本への封書はEUR 1.25と旅行ガイドブックには書いてあったのだが…。この郵便局がオーストリア共和国郵便ではなく、国連郵便局だからというわけでもなさそう。

食堂の場所を教えてもらい、今はホワイトアスパラが旬だから是非お試しをと、サジェスチョンをもってZさんとは別れる。

同行の日本人2人と食堂へ、昼休み時間は12時～14時で、食堂は11:30に開く。勧められたとおり茹でた白アスパラを選ぶ。巨大なアスパラだ。日本の缶詰のひよろひよろのものに比べると怪物。直径は1センチくらい、長さは20センチくらいでそれが3、4本に、茹でたジャガイモがどっさり、それにチョイスでサーモンかベーコン、その上にマヨネーズソースかまた別の種類のソース。その別のソースを選んだのだがそれが何かわからず。サラダは日本と言うサラダバーで好きなだけ皿に取り、レジではスケールに乗せて目方で払う。アスパラ料理は結局食べきれず。毎日毎日これだけの量を食べているのだろうか、こちらの人は。

仕事のことで特に書くこともないので、次は晩御飯の話になる。5時になって退社、6時半に同僚が宿泊しているホテルで待ち合わせ。その前に時間つぶしのためHotel Europaへ寄る。

街のど真ん中にあるホテルだ。豪華ではないけれど洗練されている感じ。値も張るだろう。本日時点で今回の一行のうち4名はここに投宿している。ディスカウントレートで、朝食込みで1泊EUR 108と聞いた。安い。今どき、首都の真ん中でEUR 100程度で泊まれるなど滅多にないだろう。僕のこの部屋もオンラインで予約したから朝食込みでEUR 100ちょっとだが、部屋には正価EUR 220と表示してある。

日本団のうちの5人と街中に繰り出す。この頃雨が落ちてくる。傘は持っていないが、まあ何とかなるだろう。同僚のHさんの案内でワインセラーへ：

Zwölf Apostelkeller
(12人のキリストの使途のセラー)

1010 Wien, Sonnenfelgasse 3¹³
www.zwoelf-apostelkeller.at

入口はわかりにくいですが、地下1Fと地下2Fに店が広がっている。手持ちの旅行ガイドブックに紹介されている。16世紀の建造物を利用したウィーン最古のワインケラー(ワインセラー)のひとつ。快適、快適。若者に人気があるらしい。

冷たい„12-A“ Hausplatte と暖かい„12-A“ Hausplatte。Hauseplatteは盛り合わせというくらいの意味だな。2人分だというのがとんでもない。4人分くらいある。肉やハムやサワークラフトやその他野菜。こちらでは肉やハムに山葵(わさび)をつけて食べることもある。そう言えばホテルの朝食でも練り山葵が置いてあった。勿論目の前の山葵はおろした新鮮な山葵である。僕は、これをつまみながらビール0.5Lを2杯に白ワインを2杯でほろ酔い。6人合計でEUR 130 なんぼ+チップでEUR 150。EUR 25/人。

Hさんは、こちらに7、8年勤務して2年前に帰社。ウィーンを知り尽くしている。店を出てすぐにシュテファン寺院の脇を通ったとき、Hさんの観光案内。寺院の壁に「05」と書かれたプレートがある。これの由来。これは「ゼロ5」ではなく「OE」(オー・イー)と読む。Eはアルファベットの5番目だから。そして「OE」はドイツ語でオー・ウムラウト「Ö」を表し、そして「Ö」はオーストリアを表す。オーストリアは英語のつづりではAustriaだが、ドイツ語ではÖsterreich(エースタライヒ)である。「05」はナチス・ドイツ侵攻に対してのウィーン市民の抵抗だった。シュテファン寺院は、オペラ座と同じく第二次世界大戦でドイツの空爆でやられたが。

店を出た頃には雨は上がっていた。少し雨が降ったが今日も暑かった。地下鉄で帰る。2日目が終る。

(今日の出費) 郵便 EUR 1.40、昼食 EUR 6.98、夕食 EUR 25.00 : 合計(現金) EUR 33.38

5月12日(火)朝は雨、夕方には上がる

2度目の朝食。すでに飽き始めた。でもパンもチーズもハムもおいしいけどね。

今日是最寄りの駅から地下鉄で出勤し、地下鉄で直行帰宅。

職場で昨日忘れた日本からの土産をZさんに渡す。そしたらその倍以上の品が返ってきてしまった。奥様は先日かっぱえびせんに感激していたとおっしゃっていたが、予め知っていれば買っていったものを。もらった品は、スパークリング・ワイン 1

¹³ die Gasse (女性名詞)【1】路地、横町((英)lane) Sackgasse 袋小路、【2】(オーストリアで)通り、街路【3】路地の住民。旅行ガイドブックでは「~小路」と訳されているが、僕のこの文章では区別するのが面倒なので、gasseもstraßeも「~通り」と訳している。

本、ウィーン国連本部のエコバッグ、IAEA のグランパスストラップ、ゴディバのチョコレート、ウクライナ共和国のチョコレート。

スパークリング・ワインは2ユーロくらいで買ったが、日本では¥3,000 で売っていたとか。ワインとフォアグラは内外格差が顕著なもの代表格ですな。ゴディバ (Godiva、アメリカではゴダイヴァと発音するらしい) は、実はオーストリア国内には店がない、それでお土産として買うしかないとのこと。ウクライナ共和国のチョコレートはZさんが仕事で出張した折の土産。

今日も昼食は食堂で。何というメニューだったか忘れてしまったが、インドネシアっぽい(?) 料理で、肉とかピーマンとかかぼちゃとか豆腐とかを煮た料理。髪の毛が入ってましたよ～。EUR 4.98。

帰りの地下鉄車内。僕は入口近くに立っていた。途中駅で車椅子の男性が乗り込んできて、僕の前に落ち着いた。次の駅に停車したとき、駅名表示板を見上げていた僕の脇からサッと女性の手が伸び、電車のドアが開けられた。車椅子の青年はそのままバックで降車して行った。しまったと思った。彼の表情に気付くべきだった。そう言えば、ドアを開けるレバーの横には「Open sharply」と書いてある。しかしこのレバーは結構堅くて、お年寄りには無理だろうと思っていた。しかしその心配はないのだ。周りの若者が空けてくれるから。

電車の中では結構多くの人がタブロイド版というのか、見開きで A3 版になる大きさの新聞を読んでいる。「HEUTE (ホイテ、「今日」の意)」という新聞で、無料なのだろうか。表紙を飾っていたのは秋篠宮殿下夫妻の訪問で、漢字で「歓迎」と印刷してあった。ただ、残念ながらその記事を読んでいた人は見かけなかった。

昨日まで枕銭を置くのを忘れていた。申し訳ないので少し多めにこれから EUR 2 ずつ置こう。

(今日の出費) 枕銭 EUR 2.00、部屋のミニバーのビール 1 本 EUR 3.25 とアップルジュース 1 本 EUR 3.45、昼食 EUR 4.98 : 合計 (現金) EUR 6.98 (カード) EUR 6.70

5月13日(水)曇り

昨日は5時終業後さっさと帰宅。喉が渴いていたので部屋のビールとアップルジュースをそれぞれ1本。やたら眠くなり、ベッドに横になったが、気がついたら夜中。そのまま朝まで眠ってしまった。夕食はとらず仕舞いだったが、毎食カロリーの高そうなものを食べているので、たまには抜いたほうが良いという気がする。

いつも5時頃には起床するが、今朝はさらに早く4時。いつものように風呂に入る。自宅と違ってホテルだと毎日風呂に入る気がするのは何故だろう。浴室から出ても、室温が調整されていて快適だから

か。やっぱり暑い。部屋のクーラーをしばらく ON。

PC に向かいメール対応をしているうちに、朝食の時間が近づく。今日は失敗せず、山葵マヨではなく辛子マヨを選んだ。僕の典型的なメニューは；

- ・ スライスされた黒パンか、何とかパンをナイフで二つに開いてマーガリンを塗ります。そこへスライスチーズを乗せ、辛子マヨを塗りたくり、ハムを乗せます。これを二切れのパン両方にして、合わせて食べる。
- ・ 野菜は、こちらの、例の太いきゅうりと黄色と赤のパプリカ¹⁴のスライスしたもの、しかない。これをマヨネーズか塩を振って食す。
- ・ プレーンヨーグルトをそのまま、またはプレーザーブかオレンジマーマレードを混ぜる。またはシリアル+ミルク
- ・ ブラックコーヒー1または2杯

暖かい食べ物はスクランブルドエッグとウインナー (もしくはソーセージ) とベーコンしかなく、滞在中二度食べたきり。

今日の出勤は、一昨日と同じくベルヴェレーデ宮殿の庭を。レンベーク通り (Rennweg) へ出て、今夜の夕食会場のビアホールの場所を確認しておく：

Salm Bräu

Rennweg 8

<http://www.salmbraeu.com/indexen.htm>

レンベーク通りとシュヴァルゼンベルク通り (Schwarzenbergstr.) とプリンツ・オイゲン通り (Prinz-Eugen-Straße) の合流地点にホッホシュトラール泉 (Hochstrahl brunnen) があり、その後ろに巨大な兵士像がある。ごく最近完成したのか、男の二人が掃除をしていた。そこへ背広を着た背の高い人がロシア語をしゃべりながら近づき握手をしていた。兵士像の台座にはロシア語の、おそらく戦没者らしい氏名が並んでいる。台座の周りを回ってみたが、ロシア語以外の文字は一文字もないほど。APRIL, 1945 という文字だけは読み取れた。

後で聞いたところ、この辺り (ウィーン第3区) は第二次世界大戦で旧ソ連が占領していたが、何年か後によりやく撤退、しかし、記念像だけは残せと言われたとか。占領跡にソ連兵士の戦没者記念像を建立するなど、ウィーン市民を全くバカにしているではないか。訪れるウィーン市民がいるのだろうか。石を投げられても仕方がない。それでも壊せないのは、ロシアの復讐を恐れるあまりか。

一昨日と同じくシュヴァルゼンベルク通り (Schwarzenbergstr.) を北上し、環状道路ケルントナーリンクを西向きに。右手にグランド・ホテルあり。

¹⁴ (Wikipedia) 唐辛子の主な辛み成分のカプサイシンが劣性遺伝子のため、ピーマンやシントウガラシと同じく果実に辛みをもたないトウガラシの栽培品種。パプリカの品種を作り育てたのはハンガリーで、現在も一大産地。

最高級ホテルとか。「雲海」という日本料理屋が入っている。それを過ぎてすぐのアカデミー通りへ右折。NESPRESSO 社を左手に見て、クーゲル通り (Kugelstraße) を左折。右手に日本料理屋「天満屋」を見てケルトナー通りへ出る。右折しシュテファンсплаッツ駅へ向かう途中に S さんと合流。シュ駅から地下鉄に乗り出勤。

昼食は何を食べたか忘れた@食堂。

退社後ホテルに戻り PC に向かう。この旅行記の続き。まもなく出掛ける。今度はベルヴェレーデ宮殿を通り抜けるのではなく、ホテルから一筋目、つまり、ホテルと地下鉄駅との間にあるアルゲンティーニャー通り (Argentinierstr.) を聖エリザベート教会の脇を抜ける。テレジアヌム通り (Teresianumgasse) へ右折し、プリンツ・オイゲン通りに出て北上、レンバーク通りへ入る。

日本人 3 人でビアホール Salm Bräu で夕食。またシュニッツェルを食べる。どこで食べても当たり外れはあまりないように思う。ということは工夫のしがないということ？スペアリブが旨いと評判らしい。奢られてしまった。謝謝。プリンツ・オイゲン通りを歩いてホテルへ戻る。

(今日の出費) 枕銭 EUR 2.00、昼食 EUR 6 : 合計 (現金) EUR 8

5月14日(木)雨

インターネットの使用期限が切れてしまったので、新たに購入。今度は 7 日間 EUR 88.00 のコース。通信費は、領収書もらえば会社が立替払いしてくれることをメールで確認済み。

傘をさす必要があるほどの雨が降っていたので、歩くのを諦めて地下鉄で出勤。子どもたちが乗り込んできたが、さほどうるさくはなかった。騒いではいけないことを会得している。

昼食はチキンピカタ・スパゲティ添えとサラダ。勉強中に自動販売機でコーヒー 2 杯。EUR 0.25×2 杯。

明日の日本団の報告に備え (?), 夕方職場で日本主催の簡単な立食パーティー。挨拶も何もなく気楽でいい。真ん中のテーブルには大きな寿司桶が 4 つ、5 つあった。外国人が群がっていたが、彼等も手巻き寿司より握りずしがお好みらしい。足りなくなって、日本人職員が折り詰めをいくつか追加。世話係は大変だ。寿司はおいしくなかった。インターナショナルシティーとは言え、日本の回転寿司の方がまだましだ。

外国人は大きくふたつに分かれる。寿司に群がる外国人と、何というのかわからないけれど、カロリーが高そうな西洋のワインのつまみのような、単なるスナックより手の込んだ食べ物に固執する人たち。

職場の食堂ではお昼時に寿司のランチボックスもある。食べたことはない。

白ワインとスナックと寿司二切ればかりで腹を満たし、小 1 時間でその場を辞して地下鉄でケルトナー通りへ。日本人 3 人で初日の夜に行った店でビールを飲み直し。

何とも中途半端な、煮え切らない時間が流れていく。そもそも今回の出張の必須時間は日本の発表がある 5 月 15 日の 4 時間だけで、それも発表者の横に控えていて出番がなければそれっきり。その他の時間は、実は後学のための経験と、こういう機会をとらえての外国人関係者との接触。つまり duty はあまりない 13 日間の出張。

それはわかっていたので、日本で日頃机の上に積まれている仕事を持ってきたのだが、それはそれで、本来別の目的のために居る場所なものだから集中できない。進まない。精神的に悪い。精神安定剤ではなく精神不安定剤になっている。大したことはしていないのだが何だか疲れる。平日に以前のように時間を見つけてアチコチ歩き回るなんて気が起こらないのはきっと歳のせいだなあ。

とはいえ、今日は日本から持ち込んだ宿題をする。A 氏が書いた教科書原稿を読む。

(今日の出費) 枕銭 EUR 2.00、部屋のミニバーのビール EUR 3.25、インターネット EUR 88.00、昼食 EUR 6.38、コーヒー EUR 0.50、夕食 EUR 10.00 : 合計 (現金) EUR 18.18 (カード) EUR 91.25

5月15日(金)曇り

今日の出勤経路は、アルゲンティーニャー通り (Argentinierstr.) を聖エリザベート教会の脇を抜けてカール教会 (Karlskirche : カールの教会) へ出る。教会の前にある広場がカールス広場、つまりカールスプラッツ (Karlsplatz) で、それが地下鉄駅の名前。

カールス広場を突っ切り出たところの広い道がローテリング通り (Lothring str.)。広いが決して賑やかではない。自動車道路。ケルトナー通り (Kärntner Straße) へ右折し、カールスプラッツで地下鉄に乗る。

アルゲンティーニャー通りでも気付いたし、カールス広場を出て信号を待っていたときにも気付いたのだが、ウィーンは自転車専用路が整備されている。アルゲンティーニャー通りなど広くないから、もともと対向 2 車線だったのを一方通行にしてまで自転車専用路を作ったと思えるほどだ。サイクリストも安全に堂々と通行できる。

ただし、自転車専用路を通行するにもきちんとしたルールが課せられる。違反して事故にあっても自分の責任だし、もっと弱者である歩行者に対する安全確保の義務が求められる。日本だとおそらくこうはいかない。横柄極まりない自転車乗りが、歩行者をそこのけそこのけと言わんばかりに疾走する。

仕事ではいよいよ日本の報告。それなりの質問対処をし、問題なく終了。それにしても代表者は卒なく、かつ譲れないところはそれなりに答弁をする。

責任は重大だ。

昼食は自身魚のフライ+ライスとサラダ。

夕食は打ち上げと称して居酒屋へ。出席するかしないか随分迷ったのだが、今まで口を聞いたこともない日本人とも話す機会だと思って出席。店は、

Melker Stiftskeller
Schottengasse 3, 1010 Wien

というところ。洗練された店で、ここも地下に広い部屋がある。とても大きい部屋。

ここへ来るまでに実は少し迷った。リンクからほんの少し入ったところなので、中心部であるケルトナー通りから徒歩圏内であるが、遅刻しそうだったので(実際遅刻したのだが)、ホテル近くから地下鉄U1に乗り、カールスプラッツ駅でリンク沿いを走るU2に乗り替える。この線は2008年完成(たぶん新装)と新しく駅も電車もびかびかだ。路線距離は7.4 km、11駅と他の路線(13.5 km、21駅 [U3]~17.5 km、24駅 [U6])と比べて短い。

ショーテントーア・ユニベルズィテート(Schottentor Universität) 駅で降りるべきところ乗り過ぎて次の駅まで行き、一駅戻った。Universitätとは、オーストリアの名門大学であるウィーン大学のことであり、この辺りはいわゆる大学町と言える。

地上に上がって驚いた。トラムがぐるりと輪を描いて方向を転換している。そしていかにも学生らしい若者たち。

地図と通り名のプレートを見ながらまもなく上の会場に到着。こちらに住んでいるエライさんも出席していた。後半、普段は日本で口を利いたこともないH₂さんと親しく話させてもらった。これが収穫。

10時頃に散会。ヘレン通り(Herrengasse)のライトアップされた建物の光景は酔った目に何とも美しかった。もう一度来なくてはいけない。

ケルトナー通り(Kärntner Straße)のマクドナルドでフレンチフライ。EUR 1.69。

左足のかかるとに靴擦れが出来た。持参したバンドエイドが助けてくれる。今回の旅行の直前に購入した靴だが、めずらしく靴連れができず、痛いところもない。これは助かる。

地下鉄1号線でホテルへ戻る。

(今日の出費) 枕銭 EUR 2.00、昼食 EUR 6.39、部屋のミニバーのビール EUR 3.25、夕食 EUR 25.00、フレンチフライ EUR 1.69: 合計(現金) EUR 31.83 (カード) EUR 3.25

5月16日(土)曇り

Zさんとドライブ。ハンガリーの町ショプロン(Sorpron)へ。

実は、日本にいる間はこの土日は国際列車でプラハかブダペストへ1泊2日の旅を楽しむにしていたのだが、忙しさに紛れてきちんと計画を

練れなかったのと、本当にその気になれば当日土曜日の朝にでも切符を買えばいいと、こちらに到着した後も思っていた。

そこへハンガリーの地方都市へのドライブの誘いがあったので、これはそうそうあるチャンスではないとドライブを選ぶことに。

隣国までとにかく近い。スロバキアの首都ブラティスラバとウィーンとは世界一短い首都間としてツインシティと呼ばれているとのこと。下に示すように、水戸から宇都宮かあるいは北へ福島県境を越える程度の感覚だ。

ウィーンから周辺8カ国の首都までの直線距離は次のとおり。参考までに括弧内に水戸からの距離を示しておくが、水戸から西に向かって行けばどこも本州内で収まる:

- チェコのプラハ 253 km (静岡 246 km)
- スロバキアのブラティスラバ 55 km (宇都宮 56 km、福島県境 49 km)
- ハンガリーのブダペスト 214 km (仙台、新潟 213 km)
- スロベニアのリュブリャナ 279 km (浜松 301 km)
- イタリアのローマ 766 km (札幌 746 km、広島 761 km)
- リヒテンシュテインのファドゥーツ 527 km (神戸 514 km)
- スイスのベルン 684 km (松江 680 km)

こういうわけで、オーストラリア東端に位置するウィーンからは、ブダペスト日帰りバスツアーやプラハ日帰りバスツアー(ともにEUR 125)がある。列車の旅は次の機会に。因みに、プラハまでは列車で4時間半、バスで4時間15分、ブダペストまでは列車で3時間、バスでも3時間。列車はゆったりと走るのだ。

今日目指すショプロンはオーストリア国境を越えたハンガリーの田舎町。ウィーンから直線距離で国境まで54 km、そこから7 kmでショプロン。水戸からだとも福島県境を越えてスパリゾート・ハワイアンまで行ったら行き過ぎ。

午前8時、オペラ座の噴水で待ち合わせ。待っている間にオペラ座の周りを1周する。真後ろがホテル・ザッハー。そうそう、前回来たときはオペラ座のザッハー側でたむろしてしゃがみこんでいる日本人若者が居た。

噴水は正面から見て左右両方にあるから、どちらでも見えるようにとオペラ座の前のトラム停車場で待っていると後ろから声が掛かる。Zさんはオペラ座の前のアパートに住んでいて、その地下の駐車場で車に乗り込む。

ここから国境までどの道を通って行ったか今は覚えていない。街中を一旦西に向かった後、「A3」という高速道路に入り、東南に向かってひた走る。制限時速は130 km/時。たまにスポーンと抜いていくドイツ車がある。黒のランボルギーニも抜いてい

った。ウィーン警察は今年6台のランボリギーニを
購入したとか。300馬力で追いかける心地はど
んなものだろうか。

曇り空の中、白い綿のようなものが舞う。花粉ら
しい。巨大だな。

国境。ハンガリーは2004年5月1日シェンゲン
協定¹⁵に調印し、国境検問は廃止された。高速道路
の料金所のような建物だけが残っている。まずオー
ストリア側にあり、国境上にあり、そしてハンガリ
ー側にある。3つの料金所を次々と通過するイメー
ジ。日本じゃ陸路国境を越えることはないが、ここ
欧州ではごく当たり前でした。ナイアガラでカナダ
アメリカ国境を越えてから生涯2度目の陸路国境
越えと思う。

まもなくショプロン(Sopron)の街中に入る。晴
れ間が見えて、やわらかい日差しが照ってきた。気
持ちがいい。

中心部と思われる地区の駐車場に停める。土曜日
の午前、そこそこの人の出があり、駐車場はほぼ満
車。英語が通じると思われる若い女性に、土曜日も
駐車料金が要るのかと聞く。要らない。

例によって町の真ん中には協会とその尖塔。その
周りは石畳。路地といえどもパリのような狭さでは
ない。ソ連軍の戦車が入って来れるだけの道幅は確
保してある、とは考え過ぎか。言われて気が付いた
が、アパートの外観が、テレビで見かける旧ソ連の
地方都市のそれだ。

例によって、訪れた場所の地図を買いたがる僕は、
町に2軒しかないという土産物屋の1軒へ連れて行
ってもらった。そこには地図はなかったが絵はがき
を数枚。丁度隣が本屋で(といってもこじんまりした、
美術関係の本屋か)そこでハンガリーとショプロンの
地図を買った。

ここで初めて知ったのだが、ハンガリーの通貨は
EUROではない。フォリント(Folint)という。1EUR
=250Ft。土産物屋や本屋ではユーロを受け取るがお
つりはフォリントでくれる。フォリントをウィーン

¹⁵ (Wikipediaの記事を編集)ヨーロッパ各国において、
共通の出入国管理政策及び国境システムを可能にする取
り決め。1985年6月14日にフランスとドイツに国境を接
するルクセンブルクの小さな町・シェンゲン(Schengen)
の近くのモーゼル川(Moselle)に浮かんだ船舶上にて、ベ
ルギー、フランス、ドイツ、ルクセンブルク及びオランダ
の5ヶ国により調印された。

アイルランドとイギリスを除く全てのEU加盟国及び、
EUに非加盟であるアイスランド、ノルウェー、スイスと
リヒテンシュタインの計29ヶ国が協定に調印し、そのう
ち25ヶ国が施行している。シェンゲン協定加盟国間のボー
ダーポストや国境検問所は撤去されており、共通のシェ
ンゲン査証により本地域各国への入国が可能である。但し
この協定は、非EU国民の居住や就業許可は対象外。

シェンゲン国はEUとは別のもの。4つのEU非加盟国
があり、2つのEU加盟国が存在しない。にもかかわらず
EUが持つ強みとなってきた。

へ持ち帰っても使えないので、せいぜい使い切るよ
う努力。さらに絵はがきなどを買い、手元に10Ft
硬貨1枚を残す。20ユーロ札1枚で10フォリント
(=EUR 0.04)が残ったからEUR 19.96の買い物。

今まで数回訪ねたが開いていた試しがないとZ
さんが言う町の旅行案内所へ行く。今日は開いてい
た。若い女性係員は親切に声を掛けてくれる。観光
で売り出しているのだろう、オフィスはきれいだが、
客は少ないだろうな。ここぞとばかりいろいろなパ
ンプをくれる。ご入り用の方は差し上げます。

観光で売り出していると言っても、ここへ来た僕
たちの目的はフォアグラである。近くの池で鴨を繁
殖させているとか。では昼食はI have no option but
foie grasではないか。まだ10時頃だというのに店に
入って、1,000円ほどでフォアグラ(僕は揚げたもの。
Zさんはソテーしたもの)を堪能。2年分くらいのコレ
ステロール補給ですかね。

フォアグラなど記憶にないくらい食べたことは
ないが、その僕でも旨いと思った。日本だと調味料
まみれにして〇万円で食べさせるのだろうな。

物価は安い。マクドナルドはセットで1ユーロ程
度だった。パンにつけて食べるフォアグラペースト
がここでは0.5ユーロ程度。日本では2,000円くらい。
だが買わなかった。多分家では食べない。

目的を果たして早速帰路に。来るときより短時間
でウィーン市内にまで到着したような気がした。街
中に入る直前の高速道路の分岐点に「プラハ 〇 km、
ブラティスラバ □ km」との表示。さよう、車で移
動する距離なのだ。

左に軍事博物館を眺めながら市街地へ入る。ラン
トシュトラッサー・ギュルテル通り(Lantstraßer
Gürtel)。ホテルの直ぐ近くまで来て、ベルヴェレ
ーデ宮殿の角をプリンツ・オイゲン通りへ右折。シュ
ヴァルゼンベルク通り(Schwarzenbergstr.)を左折して、
左に秋篠宮殿下夫妻が宿泊しているインペリアルホ
テルを見、右に物々しく中国関係車両が並び大きな
国旗を掲げたグランド・ホテルを見て過ぎる。よほ
どの中国人要人なのだろう。秋篠宮殿下夫婦は訪問
する4ヶ国それぞれにコンテナひとつずつのお土産
を持ち込んで来ていたとか。

今朝の出発地点だった地下駐車場に正午過ぎに
到着。隣国まで、昼食込みで4時間のドライブだっ
た。そこで別れて僕は一旦地下鉄でホテルへ戻る。
雨が降ってきた。

ホテルでしばらく時間を過ごし、4時頃出かける。
雨は上がっていた。聖エリザベート教会の横を抜け、
カールス広場を抜け、リンクへ。やはりウィーンへ
来たからにはリンクをぐるっと回っておかなければ。

オペラ座の前から西へ向かう。右手にゲーテ像、
王宮庭園とベートーベン像。道を渡って左手奥にマ
リア・テレジア像。この像の両側を自然史博物館と
美術史博物館が挟む。像は修理中で近寄れなかった。
この像は覚えている。前回来たとき、この近くのベ

ンチで休んでいたら、珍妙な出で立ちの若いカップルが近づいてきて、世界旅行中だがまだ日本には行っていないので日本の紙幣を見たことがない、見せてくれと。もう少しうまいことしないとなかなか相手にしてくれないんじゃないの。

道を挟んで反対側が王宮だが、ここは飛ばす。リンクに行くことを優先。まもなく国会議事堂。上の方にプレハブの小屋が今にも落ちそうに乗っかっている。映画の撮影かと思うほど滑稽。そんな写真をバチバチ撮っているうちにデジカメのバッテリーはアガリ。仕方がない、これ以降は携帯電話のカメラで撮ろう（しかし、買ったばかりで使い慣れない携帯電話に四苦八苦することになる）。

金属製に見える首の像。せめて胸像にしないとさらし首みたいだ。でも偉い人なのだろう。レンナーか？レンナーだ。カール・レンナー（Karl Renner: 1870-1950）。第一次世界大戦終了直後の共和国の初代首相であり、第二次世界大戦終了直後の共和国の臨時首相・初代大統領で、「建国の父」と呼ばれる。リンクのこの辺りはカールリンクと言う。レンナーの墓も中央墓地にある。

国会議事堂を過ぎたあたりからやたら人が増え、市庁舎前は群衆と化していた。さきほどからちょこちょこことヘンチクリンな服装や、殆ど裸同然の格好に厚化粧をした人たちが歩いていると思っていた。その人たちはこの群衆の中に消えていく。どうもエイズ撲滅キャンペーンらしい。それも欧州最大規模だとか。おそらく著名人とか *celebrity* とか呼ばれる人が来るのだろう。テレビ局のクルーも控えている。このイベントの成り行きを眺めてみようかと思っただが、歩く方が優先。しかし到底容易には前に進めない。市庁舎にもウィーン大学にも巨大な尖塔のヴォテューフ教会にも近づけない。

午前10時のフォアグラ以降何も口にしていないので腹も減ってきた。せっかく街中にいるのにひとりで食べるのもナンダかと思ひ、Sさんに携帯で連絡を入れる。ちょうどホテル近くの日本料理屋に入ったところだと。そこへ急行することにする。

そのとき僕はちょうど金曜夜にキョロキョロしたショーテントーア・ユニベルズィテート（Schottentor Universität）駅の付近におり、地図を見ながらリンクの内部へ小走りで行く。グラーベン（Graben）を抜けケルトナー通りへ。もう一度電話をして店の場所を聞き、日本料理「優月」へ合流。ケルトナー通りからヒューリッヒ通り（Führichgasse）を西へ向かっていったところの右手。ビールやらワインやら。僕は確か海鮮丼を食べた。結局6時頃から10時頃までいたことになるだろう。混んできたのは9時頃からのような気がする。それも多くは中年以上の男女二人連れだ。和食ファンなのか。食べ方も板についていた。こちらの人たちはこの時間から食事か。オペラか観劇の後だろうか。

僕らからひとつ挟んで向こうのテーブルに若い

カップル。そうか、みそ汁には蓮華が付いてくるのか。彼らは容器を口に付けてスープを飲むことはないからね。しかし、みそ汁のお椀に蓮華は大きさのバランスがおかしい。

Sさんとはいろいろな話をしたが、日本の電力会社が技術開発をしないのは、もしかしたら国のやり方の反映ではないか。自ら開発などする必要はない、できたものを買えばいい。それでは技術力はどうやって維持するのか。自動車会社がエンジンの開発をやめたら自動車会社としては終わりだ、という話には納得。

帰途に着く。ケルトナー通りは、そのまま南へリンク外に出るとヴィートナー・ハウプト通り（Wiedner Hauptstr.）と名称を変える。グスハウス通り（Gußhaus str.）へ左折、すぐにファボリーテン通り（Favoriten Straße）へ右折、この通りを延々と南下。暗い道だ。

いつもの地下鉄の駅、ズュートティローラー・プラッツ（Südtiroler Platz）駅に出た。つまり地下鉄の路線に沿って帰って来たことになる。

今日は午前中はハンガリー、午後はウィーン市内。

（今日の出費）枕銭は忘れた、Sopronでの絵葉書と地図 Ft 2490 = EUR 19.96、昼食 Ft 5980 = EUR 26.00、同チップ EUR 2.00、部屋のミニバーのビール EUR 3.25、夕食 EUR 20.00：合計（現金）EUR 67.96（カード）3.25

5月17日(日) 快晴、暑い

動き回った。書くことは一杯ある。思い出せるだろうか。

今日の観光の目玉は3つ。地下鉄6号線に乗ること、シェーンブルン宮殿へ行くこと、そしてベルヴェレーデ宮殿に展示されているクリムトの絵『接吻』を観ること。そしてそのためになるべくたくさん地下鉄やトラムに乗ること。

ウィーンに到着したその日に購入した1週間フリーパスは昨日で切れている¹⁶。今度は、博物館などの割引もついて乗り物3日間有効のウィーン・カード（EUR 18.50）にしてみよう。ホテルで売っているはず。

ところが、ホテルのレセプションのお兄さんは、「もっと長く滞在するのだから1週間フリーパスを買え」という。「いや、それは月曜日から有効だろ。今日は日曜日だから・・・」と言ってもまったく介さない。南駅で1週間フリーパスを買うことにした（EUR 14.00）。結局博物館などほとんど入らなかったもので、それでよかったのだが。

朝7時半すぎ、晴れてはいるが涼しかったので、

¹⁶ 僕が持っている旅行ガイドブックには書いてなかったのだが、1週間フリーパスは月曜日から次の日曜日まで有効。僕は日曜日から使い始めて昨日土曜日まで使っていた。こういう使い方も摘発されない。

半袖の上に黒のハーフコート。これが終日やっかいものの扱いになる。

(1) 南駅へ

南方路線、東方路線のプラットフォームを見に行く。日曜日の朝、人影はまばら。2, 3の家族連れだけ。改札というしかめつらしいものがない。それと改札口とプラットフォームが同じ階にある。これらがたぶん欧州の鉄道の駅で開放感を感じる理由だろうか。駅には煙草屋、カフェ、パン屋、弁当屋、コンビニ、床屋、その他インフォなど。弁当屋は韓国人らしき店番がいて、日本の巻寿司と飲み物がセットで売っていた。

ガラガラの状態でも列車は出ていく。薄暗い構内から陽光の中へ出て行く。

この駅では、東方路線は南東に向けて出て行き、南方路線は南西に向かって出て行く。地図で見ると、南東に向けて出た東方路線は徐々に東に向いてブタペストに向かい、南西に向けて出た南方路線はやがて南に向いてスロベニアやイタリアへ向かう。

(2) 地下鉄1号線のSüdtiroler Platz 駅へ

南駅の東方路線のプラットフォームに、この地下鉄駅への連絡口の表示がある。それに従って歩いていくと、何のことはない、近道というだけで、駅同士が連結しているわけではない。一旦外に出る。ガード下を抜けて駅の南側に出てみたが、こちら側に地下鉄の駅への入口はない。それに、駅の周囲によくありがちだが、寂れた様子。ごみが散乱している。結局道を北へ渡っていつもの入口から地下へ。

(3) 地下鉄1号線の終点ロイマンプラッツ (Reumannplatz) 駅へ

2 駅先の終点。ここからトラムで地下鉄3号線 U3 の終点に近いエンクプラッツ (Enkplatz) 駅へ移動する目論見。

が、失敗。僕が持っている地図にある6番などというトラムはロイマンプラッツ (Reumannplatz) 駅では発着しない。この地下鉄駅を地表に出たところの停車場には別の番号のトラムが走っている。座っている二人に聞いたがわからないという。どうやら僕が持っている路線図は簡単すぎる¹⁷。上の二人とも「一旦街中へ出て U3 に乗ればいい」という。それではダメなのだ。U1 に乗ってもと来た駅へ戻る。

(4) 再び南駅へ

南駅 (Wien Südbahnhof) は東西に長いので、両端にトラムの停車場がある。西端の駅が地下鉄と同じ名前のズエートティローラー・プラッツ (Südtiroler Platz) 停車場、東端の駅がズエートバンホフ (Südbahnhof)、つまり「南駅」停車場。西端の Südtiroler Platz 停車場は、周りが工事中の中、南駅構内を地下

に降りていったところにある。そう、どうもトラム 18 番は西からここまでが地下、ここから東が地上を走る。プラットフォームで左を見れば地下鉄の通路のようで、右を見れば地表の日差しが見える。トラムは路面電車と呼ばれるが、ウィーンのトラムは地下にも潜る。

(5) シュラハトハウス通り (Schlachthausgasse) 駅へ

トラム 18 番に乗って U3 のシュラハトハウス通り (Schlachthausgasse) 駅を目指す。南駅停車場を出ると、トラムはそのままラントシュトラッサー・グリュテル (Landstraße Grütel) を東に向かう。ここは昨日 Z さんの車で戻ってきた道だ。軍事博物館を右手に見て、Landstraße Hauptstraße と地図には書いてある長い名前の通りへと左折、ここからは僕の見知らぬ道だ。乗客はのどかな表情の地元の人たちがちらほらで、観光客なんかじゃあない。トラムは直進し、いくつかの停車場を経てシュラハトハウス通り (Schlachthausgasse) 駅へ到着。ビルの谷間で折り返し地点になっているような停車場だ。降車すれば目の前が地下鉄駅への階段。

(6) ウィーン・ミッテ駅 (ウィーン中央駅) へ

地下鉄3号線 (U3) に乗って北西に向かい3つ目の駅がウィーン・ミッテ駅。中央駅というだけあって地図を見ると繁華街にとっても近い。歩ける距離だ。プラットフォームへ降りてみると長距離列車が入線してきたのが見えたが、どこから来た列車かはわからなかった。トーマス・クックの“European Rail Timetable”を見ると、どうも中央駅を起点とする列車は見当たらない。大抵は北駅—中央駅—南駅と停車する。ただし、空港からの直行列車 CAT の起点だ。地下鉄の乗客の中にも、旅行用のスーツケースをもった二人づれがいた。

正式駅名はラントシュトラッサー・ウィーンミッテ (Landstraße Wien Mitte) という。Landstraße を辞書で引いたら country road と出てきた。昔は田舎道だった？確かに地図を眺めると Landstraße と呼ばれる道路は、たとえ幅が広くても、リンク内、つまり昔の城壁内には見当たらない。城壁の外の郊外の道だったのだろう。中央駅も、「中央」とはいうもののリンク外だ。

CAT が乗り入れているというので整備された大きな駅を想像していたが、期待はずれ。もともとの駅も地下にあり、地上に駅舎は見えず、CAT の発着場所へ行くには地表をぐるりと廻ることになる。現在工事中で、そのうち巨大で便利な駅が出来上がるのだろう。CAT の駅は近代的で、CAT はきれいなグリーン系の色の電車。30分おきに空港に向かって発車する。もちろんこの駅でフライトのチェックインができる。空港まで16分とか。

因みに今回訪れなかったウィーン北駅 (Wien Nord) は、11日の日記に書いたように、地下鉄1号線の Praterstern (プラーターシュテルン) 駅に隣接し、オーストリア北部へのローカル列車の起点である。

¹⁷ 後で細かい地図を見たら、6番トラムの線路は、Reumannplatz 駅は通っていない。駅から少し北にある Quellen Str. を東西に走っている。

また、同じく今回行かなかったフランツ・ヨーゼフ駅はチェコとの国境であるグミュンド(そこからプラハへ接続列車あり)への列車やヴァッハウ渓谷入口クレムズ方面への列車が発着する。フランツ・ヨーゼフ駅は地下鉄4号線U4のシュピッテラウ(Spittelau)駅またはフリーデンスブリュッケ(Friedensbrücke)駅から歩くか、トラムD番線が発着している。

(7) シュピッテラウ(Spittelau)駅に向かう

再度地下鉄3番線に乗り直し、引き続き北西に向かう。この区間は地下鉄は地上を走る。トンネルの一方の壁がないようなつくりの中に入る。上を道路が走っているのだろう。電車はドナウ河の運河(Donaukanal)に沿って走り、向かって右側の窓から運河や浮かぶ小船が見える。

(8) 地下鉄6号線に乗り換える

シュピッテラウ(Spittelau)駅へ到着し、ここでお目当ての地下鉄6号線に乗るのだ。

U4を降りU6乗り場へ上がるとそこは勿論地上駅で、ガラス張りの向こうに誰もが目を引くような、ハイカラな工場のような建物が目に入る。そうか、これがフンデルトヴァッサーがデザインしたゴミ処理場か。おもちゃのような柄だが、これが、直線を嫌い、画一的な住宅群などを毛嫌いした彼のデザインなのだ。フンデルトヴァッサーハウスは街中にあり、絵葉書にもなっている。1997年には大阪のゴミ処理場の設計も手がけたらしい。

(9) 始発駅へ向かう

せっかくだからU6の始発駅(終着駅)から乗ってみようと、ドナウ河を渡る方向に乗る。ドナウ河を渡るのだから当然地上を走るわけで、右側車窓からは、ドナウ河と、地下鉄1号線沿いの国連センタービルの一帯が見える。Alt Doanu(昔のドナウ?)という、行き止まりになっているように見える水面には小船が浮かぶ。

始発駅(終着駅)はフロリズドルフ(Floridsdorf)駅という。だが、どうも終着駅ではないようだ。僕が乗った電車はその先へ向かって走り出し、行先表示はアインシュタイン(Einstein)何とかとなっていた。あやうく乗り過ぎすところだった。この辺りはS-bahnという国鉄が平行して走っていて、乗り入れをしているのかも知れない。

トイレへ。有料。50セント(EUR 0.50)硬貨をドアノブについているスリットに挿入するとドアがあく(座る方ですよ)。

(10) 地下鉄6号線を南下する

今度は反対方向の車両に乗る。何故地下鉄6号線か。旅行社からもらったガイドブックに短いコラムがあった。コラム曰く；

地下鉄6号線は、その殆どが地上を走る(乗ってみてわかったが、一部地下に潜ったりする)。もとはウィーン高架鉄道として建設されたが、市営電車に統合された。旧型の車両は市電とほぼ

同じ造りで、木製の内装が味わい深い。フンデルトヴァッサー設計のごみ処理場の横を通過すると、昔からの路線を走る。赤レンガの高架部分は、大正時代に有楽町や神田駅の辺りの設計の参考にした。駅舎のほとんどは建築家オットー・ワグナー¹⁸の作品で、手すり、ベンチ、駅名表示など、19世紀末のデザインが色濃く、古きよき時代の香が漂う。

で、6号線に興味をもった。なるほど地図によっては6号線は「U6」とも書いてあるが「市電」という表記もある。

U6号線は古いけれど、他の地下鉄線と同じく軌間は標準軌である1435mm¹⁹。しかし、U1-U4号線が第三軌条集電方式²⁰で大型の車両を用いるのに対し、U6号線は架空電車線集電方式²¹で路面電車と同サイズの車両を用いている。

シュピッテラウ(Spittelau)駅から市内へ向かう車両に乗ると、右手向こうから赤レンガの高架構造が近づいてくる。昔は市電がドナウ河沿いに北上したのだろう。

近づいてきて合流するかと思いきや、合流する手前100メートルくらいは新しいビルの中に入っていく形になり、線路をはがした跡をビルの内部の一部としてうまく利用している。

地下鉄6号線は、リンクと呼ばれる観光地の繁華街とはほど遠く、リンクのうんと北の方から西の方へとまわって行き南下する。ウィーンの郊外地図で見るとよくわかるが、市の西方を南北に結ぶ、途中で名称を変えながら若干くねくねしながら南北を結ぶ通りを走る。ウィーン郊外の、浮かれていない、静かな住宅地の中を、その地域に溶け込んだような駅舎で乗客を迎えながらトコトコ移動していく。乗ってみる価値はあったね。面白い。

そのうちウィーン西駅(West Bahnhof)でU3と交差し、さらに二つ目のレンゲンフェルト通り(Längenfeldgasse)駅で地下鉄4号線と交差する。地

¹⁸ オットー・ワグナー(1841-1918)近代建築の基礎を確立。装飾性を重視しながら機能性を加えた華やかですっきりとしたデザインが特徴(旅行ガイドブック)。

¹⁹ 軌間(線路の内側間の幅)には広軌、標準軌、狭軌がある。1435mmが標準軌で欧米の標準規格。日本では新幹線、主に関西の私鉄、路面電車、地下鉄で使用。広軌は1524mm、1600mm等々。日本には存在しない。ロシア、インドなど。狭軌は標準軌より狭いもので、日本のJR在来線、多くの私鉄、これに乗り入れる地下鉄が1067mm。僕らがもっとも見慣れている幅。

²⁰ (Wikipedia)線路内に走行用の2本のレールと並行して第三の電源供給用レール(第三軌条)を敷設し、車両の台車に取り付けられた集電靴(コレクターシュー)を介して電源を供給する方式。サードレール方式ともいう。

²¹ (Wikipedia)電車が通る空間の上部に架線を張り、ここからパンタグラフなど車両上部にある集電装置を通じて電源を供給する方式。架線集電方式ともいう。架線はトロリー線、電車線などとも呼ばれる。

下鉄 6 号線の見ものはおそらくこの辺りまでだ。ここから先、つまり南側の路線では、駅舎に魅力があるわけではなく、風景も、大きなマンションがあったり、倉庫のような建物が目立ったり。後になって延伸した部分なのだろう。駅間距離も長い。終着駅ジーベンヒルテン (Siebenhirten) 駅は、ほんとにささやかな、乗降客も少ないだろうと思わざるを得ない駅。ふと見ると大きなバス停があったが、ここから先はバスに乗り換えなさい、というそのような駅。リンクからはざっと 20km くらいは離れているようだ。因みに乗った車両の内装は木製ではなかった。残念。

何もすることは無い。早速乗ってきた折り返しの電車に乗り込む。

(11) シェーンブルン宮殿へ向かう

シェーンブルン宮殿へは地下鉄 4 号線のシェーンブルン駅で降りる。だから地下鉄 6 号線をレンゲンフェルト通り (Längenfeldgasse) 駅まで戻り 4 号線西行きに乗り換える。二駅だけ郊外に向かう。この車両は客が多い。みんな行先は同じである。Schönbrunn 駅。駅自体は小さい。

他の客のあとについていけば自然と宮殿正門に到達。午前 11 時半過ぎ。今日はここまでのいろいろ動き回ったが、まだ正午前だ。もう夏のような日差しだった。

(12) シェーンブルン宮殿²²にて

まず昼食。門を入ってすぐに両側に店がある。土産物売り場と簡単なカフェ。混む前にとこのカフェに入り、バゲットのハム&チーズサンドイッチと、渦を巻いたデニッシュっぽいパンとコココーラ (合計確か EUR 8 くらいだった)。何だ、ここにはバゲット

²² (Wikipedia を編集) 「シェーンブルン」は「美しい泉」の意。

14 世紀から 1642 年頃まで荘園と製粉場、1565 年神聖ローマ帝国皇帝が雉 (きじ) の繁殖場をつくり、七面鳥や孔雀などのめずらしい動物類も集めた。1683 年オスマン帝国軍が破壊。1693 年レオポルト 1 世が狩猟用の別荘をつくり、歴代のハプスブルク皇帝らが増築・造作を行い、マリア・テレジア (在位 1740 年 - 1780 年) の時代に完成。1752 年フランツ 1 世が宮殿脇に動物園を設置。

1762 年マリア・テレジアの娘マリー・アントワネットがここに滞在している時、6 歳の神童モーツァルトが招待される。この時宮殿内で転んだモーツァルトをマリー・アントワネットが助け起こしたところ、モーツァルトが「僕と結婚して」とプロポーズした、という伝説がある。

1805 年及び 1809 年ナポレオンが司令部として使い、軍隊と共に滞在。1815 年ウィーン会議。フランス革命とナポレオン戦争終結後の欧州の秩序再建・領土分割について。メッテルニヒ首相議長。各国の利害は衝突し、「会議は踊る、されど進まず。」

1916 年皇帝フランツ・ヨーゼフ I 世 (在位 1848 - 1916) がここで死去。1918 年オーストリア=ハンガリー帝国崩壊、政府所有。1961 年ケネディ大統領・フルシチョフ議長会談。1996 年ユネスコの世界遺産に登録。

があるじゃないか。渦巻きパンは甘い、そしてデカイ。食べきれない。

広い前広場を宮殿に向かう。宮殿の壁の黄色はテレジア・イエローと言われる。名前が色名に残るなど光栄なことだが、マリア・テレジアはこの色を好まなかったとか。もともとは金箔を張り付けたかったところ、財政上の理由でよく似た色を塗った。

人の多さ (とうるささ) に、宮殿内を見学する気力起きず。左手に回って宮殿の反対側に出る。そこにはまた広い広場が！宮殿は両翼 180m らしいが、ほぼその幅で広場が奥に伸び、はるか向こうに大きな噴水、そしてその後方の高台に別の建物が見える。立派な見晴台といった感じで、グロリエッタというらしい。あそこから宮殿を見下ろす眺めも大したものだろう、と思いながらも暑くてあそこまで歩く気力がない。宮殿から 20 分かかると。

広場の両側の森もシェーンブルンの持ち物。ジョガーたちが、日差しの下や涼しそうな森の中を走る。フランスのルイ 14 世が絶対王政を民衆に誇示するために作ったベルサイユ宮殿に比べ何となく民衆的と思うのはこじつけか。

想像していたよりはるかに広い。シェーンブルン宮殿&庭園の敷地は 1 km×1.2 km だから 1.2 km²。ちなみに水戸の偕楽園は 13 ヘクタール (= 0.13 km²)、千波湖とその周辺を併せた偕楽園公園は 300 ヘクタール (= 3 km²) だから、さすがセントラルパークについて世界第 2 位の広さを誇るシティパークだけあって、シェーンブルンは偕楽園公園には及ばない。

「へえー、広いんだあ」と、誰が聞いても喜ばない感想を残し、40 分の滞在でシェーンブルンを後にする。楽しみにしていた、現存する世界最古の動物園さえも行かなかった。とにかく暑かったのだ。腕にかけた黒いハーフコートが恨めしかった。

(13) 西駅 (Wien Westbahnhof) へ向かう

シェーンブルン駅から再度地下鉄 4 号線に乗る。西駅を見学に行くことにした。この駅は最重要駅だろう。スイスやドイツからの列車が到着する。

レンゲンフェルト通り (Längenfeldgasse) 駅で地下鉄 6 号線に乗り換え北へ向かって 2 つ目が西駅。地表へ出ると、ここも南駅と同じくトラムのたむろ場所というか、何本かの路線が集まっている。

西駅は、結局、中央駅と同じく、地下鉄&トラムの駅とは道 1 本を挟んで分離している。だが、大きな工事をしているところを見ると、まもなく地下で繋がるのだろう。

西駅もプラットフォームまで切符なしに入れる。行き先表示は国内西部のザルツブルク (Salzburg) やブレゲンツ (Bregenz)、ドイツのミュンヘン (München) 方面だった。こういうのを見ると無邪気に嬉しくなる。写真を撮る。

(14) トラム 18 番でベルヴェレーデ宮殿へ向かう

ふと見ると、ここにはトラム 18 番が発着しているのではない。これで南駅まで戻れば、ベルヴェレ

ーデ宮殿は目の前。

路線図でみると、18番トラムは、6番トラム（あの！）と同じく、西駅の北のブルクガッセ・シュタットハレ（Bruggasse Stadthalle）を始発とし、まず南下する。地下鉄6号線（≒市電）がくねくね走るマリアーヒルファー・ギュルテル（Mariahilfer Gürtel²³）通りからマルガレーテン・ギュルテル（Margareten Gürtel）通りへ入る。いくつかの駅はオットー・ワグナー作ですな。車窓右側に見えた、少し開けたところがシュヴァルツ公園だったのか。

そして、今となっては正確な場所は覚えていないが、18番トラムはいつしか地下に入っちゃうんですよ。で、6番トラムは、マルガレーテン・ギュルテル（Margareten Gürtel）通りが東に向きを変える辺りの駅で南へと分離していく。18番トラムはマルガレーテン・ギュルテル（Margareten Gürtel）通りの地下をまっすぐ東へ進み、今朝乗った南駅の西端の駅を過ぎて地表に出、南駅の東端の駅で降りる²⁴。この後18番トラムは、今朝乗ったように、市の東南部で地下鉄3号線の駅に接続する。

ついでだが、南駅のトラムの駅は結構便利のよう。18番は市内の東西を南回りで結んでいる路線。D番は南駅から市内へ入り、オペラ座の前を通り、フランツ・ヨーゼフ駅を通り、地下鉄4号線と6号線が接続するシュピッテラウ（Spittelau）駅を通り、ずっと北のドナウ河岸のヌスドルフ（Nußdorf）駅までを結んでいる。長距離だ。乗ってみればよかった。惜しいことをした。またの機会に。また、トラム0番は、南駅から中央駅を通過して北駅（＝地下鉄1号線のプラターシュテルン（Platerstern）駅）へと結ぶ。これも乗ってみればよかった。惜しいことをした。またの機会に。

つまり、南駅からは、ウィーンの他の鉄道駅全部にトラムで直結している。トラムというのは、たぶん市中心部と鉄道駅同士を連絡する目的で整備されたのだろう。

前置きが長くなったが、さて、ベルヴェレーデ宮殿。暑さは最高潮。

オーストリア・ギャラリーとしてクリムトなどの作品が展示されている。思ったよりたくさん作品が展示され、ちょっとした美術館だ。入場料 EUR 9.50。オーストリア航空の半券でディスカウントはされなかった。クリムトの『接吻』は特別扱いで展示されていた。他に見たことがあるような作品もありました。ただ、残念ながら、ミュージアムショップでは、受け取って東の間でも見入ってくれそうな

²³ Gürtel は belt の意。辞書によれば。

²⁴ だから、僕のホテルの前の道は、少し西側ではマルガレーテン・ギュルテル（Margareten Gürtel）通りと呼ばれ、ホテルの目の前辺りではヴィートナー・ギュルテル（Wiedner Gürtel）と呼ばれるが境目はわからず。プリンツ・オイゲン通りを越えるとラントシュトラッサー・ギュルテル（Landstraßer Gürtel）と呼ばれる。

絵葉書を買ってなかった。

以上で今日の目玉3つは完了。

(15) 一旦ホテルに戻る。

ベルヴェレーデを後にし、歩いて南駅構内のインフォカウンターへ。郵便局の場所を聞く。郵便局へ開店時間を見に行く。月曜から金曜は朝7時から20時まで、土・日・祝日は朝9時から14時まで開いている。

ホテルの部屋へ戻る。日に焼けて腕時計の跡がわかるくらいだ。随分動き回ったが、まだ2時過ぎ。ベッドに横になって一休み。

(16) リンク内へ向かう

4時頃むっくり起き出し、再度外へ。

聖エリザベート教会の脇を通過してアルゲンティーニア通り（Argentinerstraße）を北上、カールス広場を抜ける。

結婚した若い友人へのお土産にと Swarovski の「赤い薔薇」を買うことにした。ネットで免税店 Waltz というのがあるのを知った。その場所を確認。今日は休日なので明日以降に来よう。

それから他にチョコレートか何かを求めようと、ケルトナー通りからシュテファン寺院前を左折してグラーベン通り（Graben）へ入る。日曜日の夕方であって人、人、人。

僕の旅行ガイドブックによると、グラーベンは、ケルトナー通り、コールマルクト（Kohlmarkt）と並んでウィーンの3大ストリートと紹介されている。エルメスはグラーベン沿い。コールマルクトは、そのまま読めば「石炭市場」だから、石炭の卸問屋が軒を連ねたのだろうね。今はウィーン随一の高級店街で、デーメル、ティファニー、フェラガモ、グッチ、ルイ・ヴィトン、シャネル、ジョルジオ・アルマーニ、カルティエ。

グラーベンはまもなく突き当たり、道は細くなる。昨日夕方 S さんに会うために小走りに抜けて来た道沿いに、ラクダのマークがついた箱のお菓子を売っている店があつて気になっていた。今日もみつけたがあれはどんなものだろう。休み（人手が多い日曜なのに！）だったので、素通り。

アム・ホーフ（Am Hof）教会の角まで来て左に折れ、金曜日に通ったヘレン通り（Herrengasse）へ出る。金曜日はここを南下したのだ。が、夜景に感激したこの通りは昼間はなんと言うことはなく、頻繁に通る馬車馬が残っていく物体の匂いがして何とも幻滅。

ヘレン通り（Herrengasse）とコールマルクトとの交差点の広場がミヒャエル広場（Michaelerplatz）。ミヒャエル教会の横にあるから。

ここから、かの王宮（ホーフブルク ; Hofburg）に入る。ミヒャエル門から入る。シシィ・ミュージアムとかスペイン乗馬学校とか国立図書館とかがここらにあるんだなと思いつつながら、建物の下を抜けていくことになる。ひとり歌う身なり正しい男性が居た。

英雄広場に出る。夕方とは言え日差しはまだ強く

まぶしい。右にカール大公像²⁵、左にオイゲン公像。この広場は観光用馬車の溜り場で、客待ちのタクシーのように馬車が並ぶ。良く見ると、白い馬には白黒ツートンカラーの馬車をつけるなど何となくカッコいい。

ブルク門を抜けてリンクへ出る。リンクのこの辺りをブルクリンク (Burgring) と呼ぶ。オペラ (Oper) 座の前を過ぎる。リンクのこの辺りをオーパーンリンク (Opernring) と呼ぶ。

街中へ入り (中略)、抜けてフランス大使館の前へ出る。ここのコンビニ SPAR (スーパーと発音するらしい) で夕食を調達し、トラム D 番で帰る…つもりだったが、なんとコンビニとあろう SPAR が、日曜日だからと休み！ここの SPAR は SPAR Gourmet (グルメスーパー) で少し楽しみにしていたのに。

(17) トラム D 番でホテルに帰る

仕方がない。夕食は南駅で買おう。シュヴァルゼンベルクプラッツ (Schwarzenbergpl.) 駐車場でトラム D 番を待つ。地下鉄と同じで、次に来る路線系統と待ち時間が電光表示されるのはとても便利だ。こちらに向かっている複数の路線の電車の進行具合の情報が刻々と流されるから、路線と待ち時間の表示がセットで刻々変わる。いかにもアメリカ人らしい女の子連れの子連れの 3 大家族が、大きなマクドナルドの袋を提げ、マクドナルドのアイスクリームか何かを食べながらトラムを待っていた。アメリカ人と思っただけはマクドナルドの袋のせい？

夕方の南駅は、今朝とは見違えるほどに混んでいて話し声がかしましだった。週末にウィーンへ遊びに来た人たちが帰るのだろうか。

ANKT とか言う、街のあちこちにあるパン屋で、サンドイッチ 1 個と水とアップルジュースを買う。袋をくれないので抱えてホテルへ帰る。喉が渇いた。早速アップルジュースのキャップを開けて失敗。炭酸飲料だった。あちこちに泡が飛び部屋のカーペットにも浸み込む。プラスチック瓶に書いてある「apfel gespritzt」の「gespritzt」が炭酸飲料を表すのか。

これで動き回った 1 日は終わり。結局旅行ガイドブックで紹介されている必見度★★★★の名所を含め、ベルヴェレーデ宮殿を除いて内部に入らず仕舞い。電車に乗りまくって僕のウィーン観光は終わりました。

²⁵ どのカールかわからないけれど、昔の人。カールスプラッツのカールか？因みに (以下 Wikipedia より) ハプスブルク＝ロートリンゲン家の現家長もカール。カール・ハプスブルク＝ロートリンゲン (Karl Habsburg-Lothringen, 1961 年 1 月 11 日-)。元オーストリア皇太子オットー・フォン・ハプスブルクの長男。母はザクセン＝マイニンゲン公家の公女レギナ。全名は Karl Thomas Robert Maria Franziskus Georg Bahnam von Habsburg-Lothringen。ただし現在のオーストリアでは、ハプスブルク家を含めて貴族の称号を「フォン」の名乗りに至るまで一切認めていないため、「カール・ハプスブルク」または「カール・ハプスブルク＝ロートリンゲン」が法律上の名前。

た。満足しております。

なお、これだけ動き回っても、乗り物代は例の 1 週間フリーパスが通用するから、今日の出費は食事代とベルヴェレーデ宮殿のみだ。安上がりの観光。

(今日の出費) 枕銭 EUR 2.00、1 週間フリーパス EUR 14.00 (カード)、トイレ EUR 0.50、昼食 EUR 8、ベルヴェレーデ宮殿 EUR 9.50、夕食 EUR 5、部屋のミニバーのビール EUR 3.25 : 合計 (現金) EUR 25 (カード) EUR 17.25

5 月 18 日(月)快晴

晴だ。暑くなりそうだ。

まず夕べ書いた絵葉書を郵便局へ投函しに行く。職場の同僚の S 君と O 君、親戚の N 君、大学の後輩の M 君。いずれも結婚記念日おめでとう。合計 13 枚、EUR 18.20。1 枚 1.40。1.25 と 1.40 とどっちが正しいかわからない…。地下鉄で一気に職場へ。

昼食は子羊の肉の煮込みとサラダ。とにかく量が多いなあ。

仕事が終り、カールスプラッツ駅で降りて、昨日のうちに場所を確認しておいた日本人経営の免税店 Waltz へ。5 月 17 日に結婚した若い友人 T 君夫妻の結婚祝いに、Swarovski の「赤いバラ」を購入。ガラス細工は高等な手作業だから高価なのか。

二駅乗って 6 時頃帰宅。

アメリカの Jude McMurry と T 君夫妻へ絵葉書を書く。各 4 枚ずつ。2 時間程度かかった。これで絵葉書は残り 4 枚。

夕食は南駅のコンビニで調達。あまり食欲はないのだが、コレステロール抑制の薬を飲むために何か食べる。パンと牛乳 0.5L とビスケット。やっぱり袋に入れてくれないのでまた抱えて帰る。ホテルで食す。

携帯電話で撮影した写真を PC に移す。と言っても FOMA USB 接続ケーブルは買ってないのでデータ転送が出来ない。電子メールに添付して送る。面倒だった。携帯電話の画面で見た方が輪郭がはっきり見える。そりゃそうだね。

部屋でビールと、ワインと間違えて栓を開けた炭酸水とワインを飲みながら、この旅行記の筆を進める。今日は会議に参加している日本人同士の飲み会だと誘われたが、旅行記を書かなくては。

(今日の出費) 枕銭 EUR 2.00、郵便 EUR 18.20、昼食 EUR 5.63、Swarovski EUR 80.00 (カード)、夕食 EUR 4.90、部屋のミニバーのビール EUR 3.25 と炭酸水 EUR 2.15 とワイン EUR 3.25 : 合計 (現金) EUR 25.10 (カード) EUR 88.65

5 月 19 日(火)晴れ

まず郵便局。日本もアメリカも 1 枚 EUR 1.40 で、8 枚合計で EUR 11.20。

地下鉄で職場へ。

お昼休みに S さんの売店での買い物に付き合う。小 6 と小 2 の男の子にみやげ物を買っていた。

昼食は、日本語がやたらうまい 25 歳のフランス人ピエール・ペルディギエ君と、同行の日本人 3 人、計 5 人で、いつものカフェではなくレストランで食べる。M さんを見かけたピエール君が日本語をしゃべりたいと昼食を共にすることになり、同席した。

彼は以前 1 年間日本にいて主にトヨタで働いていた。1 年の割には実に日本語がうまい。今ウィーンで働いているが、もうすぐフランスに帰り政府組織で働くことになっている。名刺の電子メールアドレスには @mines.org とあった。mines は鉱山の意味だ。超エリートということになる。フランスの理工系大学院大学の最高峰であるエコール・ド・ポリテクニクは、確か 1 学年が 400 名程度のエリート集団であるが、さらにこの中から 10 名程度は、昔鉱山大学と呼ばれていた超々エリート大学に、フランス国家が集め、世界へ出て修行 (インターンシップ) をさせる。ピエール君のトヨタでの 1 年間はそのインターンシップだったのだろう。それが終わると早晩フランスに呼び帰し、若くして政府の要職に就くことになる。いきなり部長とかになる。ピエール君もいかにも聡明だ。

ちなみに昼食に注文したものはミネラルウォーター、クリーム・スープ、チリ・サーモン、エスプレッソで、スープは忘れられた (EUR 16.40)。

今夜は、昔東京で知り合った人たちとの夕食。日本を発つ前から K さんが企画してくれていたもの。店は、M₂さんが太鼓判を押す

Thong Thai
Windmuehlgasse 32, 1060 Wien

という店。

地図を見て位置を確認。方角的に道路が平行でも垂直でもない方向なので、いくつかの *gasse* をクランク状に曲がっていくことになる。このホテルから歩いて行くとおそらく 1 時間弱か。

6 時 40 分頃ホテルを出発。まだまだ明るい。ホテル前の大通り、ラントシュトラッサー・グリュテル (Landstraßer Grütel) を西に向かいいつもの地下鉄入口を過ぎる。道を渡るときに道路標示版あり:「左 (東) へ行くとブダペスト、右へ行くとオーストリア南部の町グラーツ (Graz) とかオーストリア中央部のリンツ (Linz) へ」と。

大通りから 1 本入ったシュネライン通り (Schelleingasse) を西へ、ヨハン・シュトラウス通り (Johann Strauss gasse) へ曲がって北西方向へ。角のカフェのテラステーブルでは、まだ明るいこの時間からもビールを飲む客たち。この通りの名前に因んで、途中で「ヨハン・シュトラウス薬局」つてのがあった。携帯の写真に収める。

レンナー通り (Rainergasse) へ右折し、すぐにシェ

ーンブルク通り (Schönbruggasse : シェーンブルンじゃないよ) へ左折、また北西に向かう。ヴィートナー・ハウプト通り (Wiedner Hauptstr.) というケルトナー通りから続くバス道を突っ切り直進。ここの直線部分が結構長い。マルガレット通り (Margaretenstr.) へ突き当たる。少しくランクして、ケッテンブリュッケン通り (Kettenbrücken gasse) を行くとレヒテ・ヴィーンツァイレ (Rechte Wienzeile : zeile = line) という道路にぶつかる。ここに地下鉄 4 号線のケッテンブリュッケン駅がある。僕の地図によると、ここに着くまでのケッテンブリュッケン通りの右側に、「シューベルト最期の家」があったのだそうだが見過ごした。

ケッテンブリュッケン駅はどこかで見たことのある駅舎だと思っていたが、日曜日にトラム 18 番の窓から眺めたものとそっくり。昔はしゃれていたであろうさっぱりした駅舎で、オットー・ワグナー作か。携帯写真。

この辺りは建物を建築してはいけない帯状部分なのか、向いの大通り、リンケ・ヴィーンツァイレ (Linke Wienzeile) まで背の高い建物が無い。この道を渡ろうとすると、正面に、1 階に「くいしんぼう」とのれん様のものを掲げた、薄いピンク色の壁に何やら花のような絵が書いてあるビルが目に入る。僕の地図によると「マヨルカハウス」というらしい。ガイドブックによればオットー・ワグナー作で、マヨルカ焼きのタイルでバラの木が描かれているらしい。「マヨルカ」は地中海の島、マジヨルカ島のことでしょね。

後でガイドブックを見直していたら、この辺りがナッシュマルクト (Naschmarkt) というウィーン最古の食品市場で、まさに食道楽横丁とある。知っていれば寄ったものを。そう言えば、ベルヴェレーデ宮殿の中に、誰の作品か忘れたが“Nachmarkt”という作品があった。数階建てのアパートを背景に、地面に売り物を並べて商売をしている絵だった。

シュテンゲン通り (Stegengasse) をグムペンドルファ通り (Gumpendorfer Str.) まで行き左折。目的の店はまもなくである。左側に和食屋らしい店があり、店先のテーブルで、若い女性二人が箸を使いにくそうにしながら何やら食べていた。時々思うのだが、箸の使い方のほうに神経が行ってしまって肝心の味がわからないのではないか。あそこまでして箸を使わなくてもいいものを。それとも、第 140 回ウィーン市民箸使いマスター選手権に出場するつもりか。

和食の話のついでだが、ここウィーンで気がついたのは、アジア料理と称して、代表的な日本料理、中華料理、韓国料理、ベトナム料理などを食べさせる店。アジア人が料理をしているのだろうが、所詮真似事だから、おそらくは自国の料理以外の味はあてにならない。日本料理というだけで価格を高く設定できるから、ということも聞いた。こういう店はパス。

で、グムペンドルファ通りを南西に向かって行く。右上方からヴィントミュール通り (Windmühlgasse: 風と沼の古径?) が鋭角に交差する、その角近くに店はあった。ホテルからの所要時間は 50 分。

ご推薦の店だけあって、料理はどれもおいしかった。満腹満腹。嬉しくなる。アルコールは少し控えめにしておいた。ホテルから遠いですからね。酪酊するとまずい。

いろんなことをしゃべった。S₂さんは来月に 3 年間の赴任を終って帰国するとかで、車を売ること、歓送会 (自分で企画し招待する) をその店のカラオケルームでするかなど、話題が尽きない。皆さん職業柄、いろんな国に出向いたりいろんな国の人と接したりしているので、僕にとっては珍しい話題であることこの上ない。加えて M₂さん料理教室、じゃなくて料理道場は、今日の面々を離れられないようにしているペーストのようだ。

因みにカザフスタンなどの「スタン」は「国」を意味する。カザフスタンはカザフ人の国、ウズベキスタンはウズベク人の国、トルクメニスタンはトルコ人の国である。現在のトルコ共和国に住んでいる人々の出自はトルクメニスタンである、とのこと等々勉強。議事録ではないので他省略。

11 時前に散会。3 時間半も話していたのか。楽しい時間はあっという間に過ぎる。

店を出、バス停から最寄りの地下鉄駅、ピルグラム通り (Pilgramgasse) 駅まで二駅乗る。実はそのバスは、地下鉄 1 号線の南側の終点であるロイマンプラッツ (Reumannplatz) 駅行きだったので、そのまま終点まで乗っていけば、地下鉄 1 号線に乗り換えてすぐ、という帰路ルートもあったのだが、地下鉄 4 号線 U4 乗りたさにピルグラム通り駅に向かう。U4 は日曜日に、レンゲンフェルト通り (Längenfeldgasse) 駅-シェーンブルン (Schönbrunn) 駅の間を往復しただけですかな。

このピルグラム通り駅の駅舎もオットー・ワグナーだろうな。U4 に乗りカールスプラッツ駅で 1 号線に乗り換えホテルへ。ちょうど 12 時頃部屋に帰着。

(今日の出費) 枕銭 EUR 2.00、ハガキ 8 枚郵送 EUR 11.20、昼食 EUR 16.40 (カード)、夕食 EUR 15.00、部屋のミニバーのビール EUR 3.25: 合計 (現金) 28.20 (カード) EUR 19.65

5 月 20 日(水)快晴

きょうも晴れ。

天気がいいのでカールスプラッツまで歩こう。プリンツ・オイゲン通りも聖エリザベート教会の通りもすでに 2 回以上歩いた。まだ経験していないのは、土曜日の夜に S さんと日本料理・優月で食べた後に歩いて帰った地下鉄 1 号線に沿うコース。ここを今日は逆に辿る。

フォボリーテン通り (Favoriten Straße、「お気に入り

通り」?) を北上。この前通ったときは夜 10 時頃で、繁華街ではないから店はほとんど閉店していた。当然人影も車の通行もまばらだった。女性ひとりでは危ないという感じ。しかし、今朝、7 時半ころの通勤・通学の時間帯の様子はまるで違っている。

ここは商店街通りだ。上下各 1 車線で車の通りはそこそこ激しい。大きな店はない。それぞれは小さな店で、食べ物屋とか床屋とかクリーニングとか、庶民の通り。せいぜい大きい文房具屋。ショーケースに、日に焼けて色あせた日本のゲームソフトを置いているおもちゃ屋。それから中学か高校。ちょうど生徒たちがぞろぞろと校門を歩いていったが、背が高いからといって高校生ではなく、こちらは大人びて見えるから中学生だろう、きっと。その隣がウィーン工科大学だが、地図で見ると気がつかなかった。そんな通り。

このフォボリーテン通りはグスハウス通り (Gußhaus str.) にぶつかり、ヴィートナー・ハウプト通り (Wiedner Hauptstr) に合流し、リンクに入るとケルトナー通りとなる。

カールスプラッツで地下鉄。

会議最終日の今日は 11 時前に終了。寄り道せずに地下鉄でホテルに一気に戻ると部屋はまだ掃除中だった。仕方なく地上階に下りて、ロビーのソファで携帯電話をいじっていたら、通りかかった女性従業員が「何か飲むか?」と。喉が渇いていたのでココ・コーラを注文。それにしてもとことん商売をしますな (EUR 2.90)。

昼食は先日買ったビスケットの残りで済まし、部屋で少し仕事。

みやげと夕食のために街中に出る。今度も今朝通った「お気に入り通り」へ。今度は屋の顔。リンク内を歩く人々とは明らかに違う表情。そりゃそうだね。リンク内は観光客と観光客に振り向いてもらうために精一杯の愛想を振りまく店員の町だからね。

文房具店でパノラマの絵葉書を 4 枚買う (EUR 2.50×4 = 10.00)。品揃えが豊富な老舗で、店内を見て回っていると時間が過ぎてしまう。

ケルトナー通りに入り、教えてもらったカフェ、ゲルストナー (Gerstner) へ。「王室御用達の伝統と格式のある菓子店」とガイドブックにある。フランク・ヨーゼフ I 世即位の前年 1847 年創業とか。皇后エリザベート妃がこの店オリジナルの「スマイルの花砂糖漬け菓子」をお気に入りだった。ガイドブックに真っ先に乗っているカフェだけあって日本人らしき観光客少なからず。チョコレートをかうも店員のおばさんは日本人慣れしているのか、淡々と応対 (EUR 28.70)。

店を出た後に「スマイルの花砂糖漬け菓子」をかうのを忘れたことに気付く。戻るのも格好悪いので他も店で買おう。と思ってケルトナー通り沿いの土産物屋に 2, 3 軒入ったが売っていなかった。日本人免税店 Waltz に売っていたことを思い出し、そこで

調達。他にチョコレート買い足し。コンビにでさえ売っているモーツァルトチョコレートは結構おいしいとかで、それも購入 (EUR 30.50)。¥4,146 円。結構高いが、この店は高め？

これで用事を済ませて 5 時半頃。夕食はマクドナルドにしよう。フランス大使館とホテル・インペリアルとの角にあるマクドナルドへ。

街中にあるマクドナルドなのだけれど、対応してくれた若い男性店員は英語を解せず、「one Big Mac, large French fry and one beer」に対し、出てきたのは Big Mac が 3 個と普通サイズのフレンチフライだった。Big Mac 1 個と普通サイズのフレンチフライでまあいいや (EUR 4.18)。あつと言う間に食べて、目の前のシュヴァルゼンベルクプラッツ (Schwarzenbergpl.) 駐車場からトラム D 番に乗って帰る。

トラム D 番はプリンツ・オイゲン通りを南下する。この通りは今まで何度となく通ったが、改めて窓から見てみると、1 戸建ての民家はなく、背が揃った、それは古いそして結構大きなビルが並ぶ。一部はアパートだし、不動産屋か何かのオフィスに使われていたり、落ち着いた感じのアジア料理とかインド料理とかビアホールとか店が入っている。

まだ明るいうちにホテルに到着。いつものようにメール対応などし、さて、荷造りを始める。いよいよ明日は帰途につくのだ。

詰め込む詰め込む。紙とワインボトル 1 本が増えた分重くなり、チョコレートなどみやげの分嵩が増えた。古い下着を 2, 3 捨てたところで変わらない。

(今日の出費) 枕銭 EUR 2.00、ホテルロビーのコカコーラ EUR 2.90、パノラマ絵葉書 EUR 10.00、ゲルストナーのチョコレート EUR 28.70 (カード)、ワルツの菓子 EUR 30.50 (カード)、マクドナルド EUR 4.18、部屋のミニバーのビール EUR 3.25 とオレンジジュース EUR 2.50 とワイン EUR 3.25 : 合計 (現金) EUR 16.18 (カード) EUR 71.10

5 月 21 日(木)晴れ、暑い

いよいよ出国の日。

最期だと思って (?) たつぷりと朝食を食べる。結局 11 回の朝食全部はここで満足した。

昨日の朝食時にも見かけた、眼鏡をかけて小柄でひとりで猫背で食べる日本人と思われる青年が、並べてある食べ物の写真を撮っていた。記念だ。気持ちはわかる。でもそのうちどうでもよくなるヨ。

昨日パックしたスーツケースを持ち上げてみる。重すぎる。書類を取り出して機内持ち込み用のバッグへ。ゲルントナーの袋に入れたチョコレート一式も同じバッグに入れたらパンパンだ。いつジッパーが壊れてもおかしくない。ともかくスーツケースも手持ちのバッグも重い。

重いとわかって不安になったのは、制限の 20kg を越えると高い超過料金をとられることもさること

ながら、実はこれらの荷物をもって、この暑い中、市中心部の、他のメンバーが宿泊している Hotel Europa まで移動しなくてはならないから。汗びしょになること必至。

目の前の南駅から空港行きの直行バスに乗るのが手取り早いものを、せっかく車を手配してくれるというので、それなら、と昨日返事をした。ただ、僕のホテルに寄ろうかと言う申し出を、他のメンバーを迎える Hotel Europa までは行きますよ、と断ったのを今更後悔する。

チェックアウト。INTERNET 接続料金 (EUR 139.00) の領収書を作ってもら。会社に提出用。ついでに部屋のミニバーの領収書も (EUR 42.40)。部屋代はオンライン予約をした旅行社に支払っているの、ホテルからは領収書は出ない。いくらかもわからないとのこと。不便ですね²⁶。

スーツケースを転がし、パンパンに膨れ上がったバッグを提げ、ホテルを出る。両手が塞がれて恐怖感を感じること。地下鉄は昇り降りが大変なので、トラムを使うことにした。トラム D 番。トラム D 番は南駅が終点で、駐車場を過ぎてぐるりと回転する。ランニングシャツを来ている人がいるような陽気の中、ジャケットまで来ているのはつらい。しかしポケットが必要なのです。

そうそう、ちょっと前に気づいたのだが、トラムの停車場には秤が置いてあるのですよ。空港に向かう人が荷物の重量を計るのかと思ったが、これは体重計だ。健康に留意しましょうということらしい。しかし使われているのを見たことはない。

トラムはプリンツ・オイゲン通りを北上し、シュヴァルゼンベルクプラッツを左折してケルトナリリンクを進む。僕がドアのボタンを押すのが遅かったのか、下りるべきオーバー (Oper) 停車場、つまりオペラ座前で停まってくれず、次の王宮庭園の前、ゲーテ像を過ぎたところのブルクリンク (Burgling) 停車場で降りる。行き過ぎたところで、まあ大した距離ではない。オペラ座に向かって左側のオーバーン通り (Operngasse) を街中に進み、左手に世界一美しいらしい国立図書館を眺め、カプツィーナ教会²⁷の前を通って Hotel Europa へ。トラムは階段の上り下りはないし、思ったほど石畳の箇所はない (石畳ではスーツケースのカートが壊れるので曳いていけない) ので助かった。

約束の時間の 11 時半より大分早くついたので、ホテルのテラスで待つ。まもなく車 2 台が到着。黒塗りのレクサスにはえらい人など 3 人、僕を含め残り 4 人はバンに。(別にひとり CAT で。) 先導するレクサスはバンに気を遣ってかゆっくり走る。乗って

²⁶ ONLINE の支払い明細書によれば、12,220 円×11 泊 = 134,420 円。

²⁷ 1632 年建造。ハプスブルク家の納骨堂。マリア・テレジア夫妻、フランツ・ヨーゼフとシシィ夫妻、その息子ルドルフもここに眠る。

いる途中に、6月のイタリアでの国際粘土学会への出席の話になり、Mさんから工作用粘土と間違われる。そうですね、普通「粘土」と聞けば昔手で捏ねて遊んだあの「粘土」を思い浮かべますよね。

途中で上着のポケットにパスポートがないのに気付きヒヤリ。右内ポケットがいつもの場所なので、スーツケースに入れてしまったスーツかハーフコートに入ってしまったままになっているであろうことを祈る。

空港。早速スーツケースを開き、コートの右内ポケットからパスポートを取り出す。チェックインはマシンで行い、あとは荷物を預けるためだけに並ぶ。気になる重量は、スーツケースを受けるプラスチックの容器込みでちょうど20.0kg。あと2kgくらいはOKだと係りのお姉さん。

空港内のみやげ物店街を一通り見て回る。小規模ながら買い忘れたお土産を買うには十分。

パスポートチェックを済ませ、土産物の税還付の手続き。免税はEUR 75.10以上の品物が対象で僕の場合はEUR 9.50が返ってくる。千円くらいか。Sさんは先ほど買ったバッグのためにEUR 50くらいあると。還付してくれるブースのお兄さんはしきりに円で受け取らないかと商売熱心だ。そうすれば手数料をとれるからね。残念ながら近々もう一度ヨーロッパ行きがあるのでユーロで受け取りました。

そう言えば、パスポートチェックのところでチェックに帰る初老の男性が係員に引き止められていて、一生懸命説明をしていた。予定より2日間余計に滞在した理由を求められていたよう。入国時に審査が厳しいのはわかるが出国時も厳しいのだろうか。あるいはパスポート偽造などを疑っているのだろうか。

お世話になったZさんに予め書いておいたはがきを投函するために書店で切手を1枚買って(国内郵便EUR 0.68だったか?)投函し、日本の職場の事務の女性へのおみやげを思い出してチョコレートを買う(EUR 9.80)。

A04番ゲートから搭乗。今度は往路のような特別な乗客はない模様²⁸。座席はエコノミークラスの前から2番目。多くの3列席でひとつは空いている、という程度の混みよう。

前から2番目の席ということは前列が先頭で、その前は壁。で、この壁に赤ちゃん用のベッドを固定できるようになっているということを初めて知った。僕は中央3列の右通路側で、通路を挟んで前列の3列席を、女の子2人連れのお母さんが使っていた。最初はひとつの席は同行のHさんの席だったが、譲った。女の子2人は、ひとつ席を占めている上の子が2歳に近く、下の子が1歳未満か。慣れているのかも知れないが、淡々と「こなす」そのお母さんに感動。

機中での映画は断念。ウィーンー東京間のフライトでは日本語がある映画が少なく、帰りは唯一、金

城武、松たか子の『K-20 怪人20面相』だけだった。それが音声途切れ途切れで聞くに堪えない。で諦めた。

間食に日清のチキンラーメンが配られる。往路ではおにぎりかチキンラーメンを希望者に配っていたが、帰りは全員に。ウィーンではおにぎりは作れないからラーメンだけになったのだろう。ラーメンと割り箸が配られ、その後ポットでお湯を注いで回る。3分待つ…。日本にいても食べたことがないものをウィーン帰りに経験。真横の外人さんは珍しそうに容器を眺め、珍しそうにすすっていた。

(今日の出費) 枕銭 EUR 2.00、切手 EUR 0.68、チョコレート EUR 9.80、税還付 EUR -9.50 : 合計(現金) EUR 2.98 (カード) EUR 0.00

5月22日(金)晴れ

予定より半時間ほど早く、朝7時半頃、いかにも暑そうな成田に着陸。インフルエンザのための検疫はなし。予め記入した書面を提出したのみ。

9時15発のローズライナーで水戸南口へ。

(今日の出費) ローズライナー ¥3,000

おわりに

- 今回もまた、天気にも恵まれ、病気もせず、盗難にもあわず、無事帰国。感謝感謝。
- オペラ：あー、全く無縁
博物館・美術館：うー、集中力欠如のため気力湧かず
「シュテファン寺院に登ってウィーンの街並みを楽しもう」…：忘れまして
カフェ・カフェコンディトライ：楽しむ心の余裕なく
ザッハー・トルテ：食指動かさず
ビール：毎日
オーストリア料理：もう少し徹底してもよかつたかな。
- ウォーキングも腹筋運動も一日もせず。案の定体重は増えていた。要ダイエット

【今回の出費】

- ・ 航空運賃 109,800円、高速バス 6,000円
 - ・ 宿泊代 134,420円
 - ・ 滞在中
(現金) EUR 323 (≒2週間4万円でOK)
(カード) EUR 369
- | | | |
|----|-----------|--------|
| うち | INTERNET | 139.00 |
| | 交通 | 28.00 |
| | Swarovski | 80.00 |
| | ミニバー | 42.20 |
| | みやげ | 59.20 |

²⁸ 秋篠宮殿下夫妻は東欧4ヶ国歴訪を終え、5月23日ご帰国、と24日の新聞で読んだ。